

I 貯蓄の状況

1 概況

- (1) 貯蓄現在高は1755万円で3年ぶりの増加 4
- (2) 貯蓄現在高が平均値（1755万円）を下回る世帯が約3分の2を占める 6

2 貯蓄の種類別内訳

- 通貨性預貯金は11年連続の増加 7

II 負債の状況

1 概況

- 負債現在高は570万円で前年に比べ2.2%の増加 9

2 負債の種類別内訳

- 住宅・土地のための負債は518万円で前年に比べ3.4%の増加 12

III 世帯属性別にみた貯蓄・負債の状況

1 世帯主の年齢階級別

- (1) 世帯主が50歳未満の世帯では負債現在高が貯蓄現在高を上回る 13
- (2) 負債保有世帯のうち負債超過額が最も多いのは世帯主が40歳未満の世帯 15

2 年間収入五分位階級別

- (1) 年間収入が最も低い第I階級の世帯では定期性預貯金の割合が半分 17
- (2) 勤労者世帯の貯蓄現在高は年間収入が高くなるに従って多い 19

3 貯蓄現在高五分位階級別

- 貯蓄現在高が最も高い第V階級の世帯の有価証券の割合は約2割 21

4 持家世帯（二人以上の世帯のうち勤労者世帯）

- 持家世帯のうち住宅ローン返済世帯の負債現在高は1724万円 23

5 高齢者世帯

- (1) 高齢者世帯では貯蓄現在高が2500万円以上の世帯が約3分の1を占める 25
- (2) 高齢無職世帯の定期性預貯金は948万円で前年に比べ3.6%の減少 26

参 考

- <参考1-1> 長期時系列（二人以上の世帯の貯蓄の推移） 28
- <参考1-2> 表 貯蓄現在高及び年間収入の推移（二人以上の世帯） 29
- <参考2> 2019年の貯蓄・負債をめぐる主な動き 30

図 表 目 次

([] 内は詳細結果表の番号)

図 I - 1 - 1	貯蓄現在高の推移 (二人以上の世帯) 4 [8 - 1 表]	4
表 I - 1 - 1	貯蓄現在高の推移 (二人以上の世帯) 4 [8 - 1 表, 8 - 30 表]	4
図 I - 1 - 2	貯蓄現在高の推移 (二人以上の世帯のうち勤労者世帯) 5 [8 - 1 表]	5
表 I - 1 - 2	貯蓄現在高の推移 (二人以上の世帯のうち勤労者世帯) 5 [8 - 1 表, 8 - 30 表]	5
図 I - 1 - 3	貯蓄現在高階級別世帯分布 6 [8 - 1 表, 8 - 30 表]	6
図 I - 2 - 1	貯蓄の種類別貯蓄現在高及び構成比の推移 (二人以上の世帯) 7 [8 - 1 表]	7
表 I - 2 - 1	貯蓄の種類別貯蓄現在高の推移 (二人以上の世帯) 7 [8 - 1 表]	7
図 I - 2 - 2	貯蓄の種類別貯蓄現在高及び構成比の推移 (二人以上の世帯のうち勤労者世帯) 8 [8 - 1 表]	8
表 I - 2 - 2	貯蓄の種類別貯蓄現在高の推移 (二人以上の世帯のうち勤労者世帯) 8 [8 - 1 表]	8
図 II - 1 - 1	負債現在高の推移 (二人以上の世帯) 9 [8 - 1 表]	9
表 II - 1 - 1	負債現在高, 負債保有世帯の負債現在高の推移 (二人以上の世帯) 9 [8 - 1 表, 8 - 22 表, 8 - 31 表]	9
図 II - 1 - 2	負債現在高の推移 (二人以上の世帯のうち勤労者世帯) 10 [8 - 1 表]	10
表 II - 1 - 2	負債現在高, 負債保有世帯の負債現在高の推移 (二人以上の世帯のうち勤労者世帯) 10 [8 - 1 表, 8 - 22 表, 8 - 31 表]	10
図 II - 1 - 3	負債現在高階級別世帯分布 11 [8 - 1 表, 8 - 31 表]	11
表 II - 2 - 1	負債の種類別負債現在高 12 [8 - 1 表, 8 - 31 表]	12
図 III - 1 - 1	世帯主の年齢階級別貯蓄・負債現在高, 負債保有世帯の割合 (二人以上の世帯) ... 13 [8 - 5 表, 8 - 24 表]	13
表 III - 1 - 1	世帯主の年齢階級別貯蓄・負債現在高の推移 (二人以上の世帯) 14 [8 - 5 表, 8 - 24 表]	14
図 III - 1 - 2	世帯主の年齢階級別貯蓄・負債現在高 (二人以上の世帯のうち負債保有世帯) ... 15 [8 - 24 表]	15
表 III - 1 - 2	世帯主の年齢階級別貯蓄・負債現在高の推移 (二人以上の世帯のうち負債保有世帯) 16 [8 - 24 表]	16

図Ⅲ－２－１	年間収入五分位階級別貯蓄・負債現在高（二人以上の世帯）	17
	[8－3表]	
図Ⅲ－２－２	年間収入五分位階級，貯蓄の種類別貯蓄現在高の構成比（二人以上の世帯）	17
	[8－3表]	
表Ⅲ－２－１	年間収入五分位階級，貯蓄・負債の種類別貯蓄・負債現在高(二人以上の世帯)	18
	[8－3表]	
図Ⅲ－２－３	年間収入五分位階級別貯蓄・負債現在高（二人以上の世帯のうち勤労者世帯）	19
	[8－3表]	
図Ⅲ－２－４	年間収入五分位階級，貯蓄の種類別貯蓄現在高の構成比 （二人以上の世帯のうち勤労者世帯）	19
	[8－3表]	
表Ⅲ－２－２	年間収入五分位階級，貯蓄・負債の種類別貯蓄・負債現在高 （二人以上の世帯のうち勤労者世帯）	20
	[8－3表]	
図Ⅲ－３－１	貯蓄現在高五分位階級別貯蓄・負債現在高（二人以上の世帯）	21
	[8－13表]	
図Ⅲ－３－２	貯蓄現在高五分位階級，貯蓄の種類別貯蓄現在高の構成比（二人以上の世帯）	21
	[8－13表]	
表Ⅲ－３－１	貯蓄現在高五分位階級，貯蓄の種類別貯蓄現在高（二人以上の世帯）	22
	[8－13表]	
図Ⅲ－４－１	持家世帯の住宅ローンの有無別貯蓄・負債現在高 （二人以上の世帯のうち勤労者世帯）	23
	[8－6表]	
表Ⅲ－４－１	持家世帯の住宅ローンの有無別貯蓄・負債現在高の推移 （二人以上の世帯のうち勤労者世帯）	24
	[8－6表]	
図Ⅲ－５－１	高齢者世帯の貯蓄現在高階級別世帯分布（二人以上の世帯）	25
	[8－10表， 8－30表]	
表Ⅲ－５－１	貯蓄現在高階級別世帯分布（二人以上の世帯）	25
	[8－30表]	
図Ⅲ－５－２	高齢無職世帯の貯蓄の種類別貯蓄現在高の推移（二人以上の世帯）	26
	[8－10表]	
表Ⅲ－５－２	高齢無職世帯の貯蓄の種類別貯蓄現在高の推移（二人以上の世帯）	27
	[8－10表]	
参考 1－1	図 貯蓄現在高及び年間収入の推移（二人以上の世帯）	28
	[8－1表]	
参考 1－2	表 貯蓄現在高及び年間収入の推移（二人以上の世帯）	29
	[8－1表]	

貯蓄の状況

1 概況

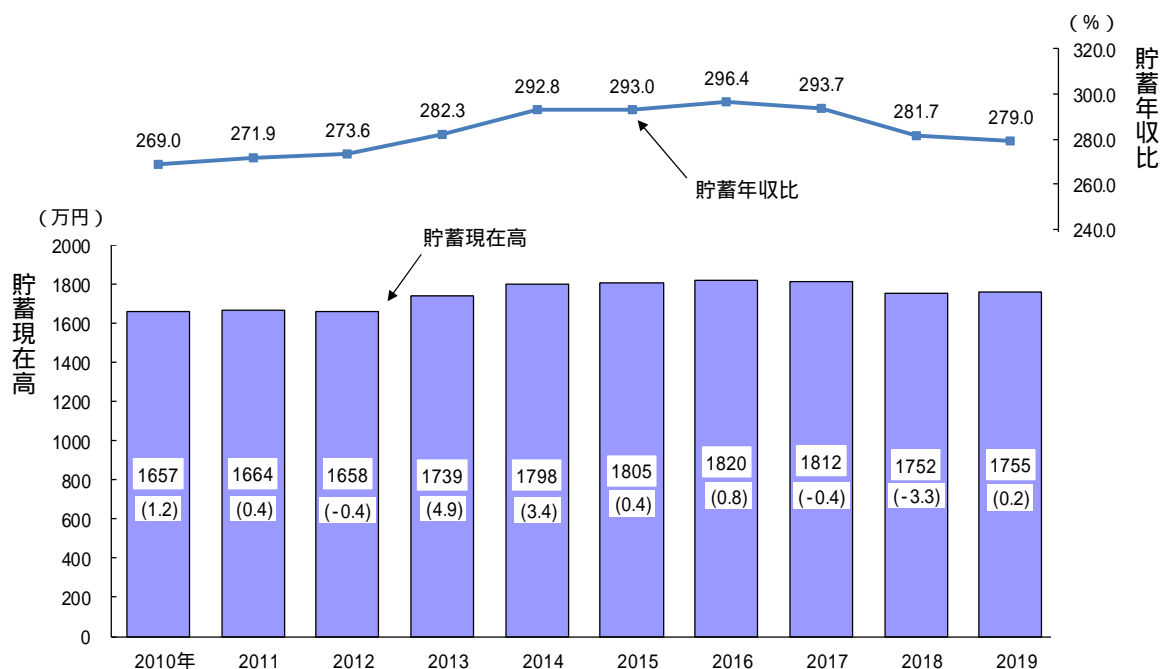
(1) 貯蓄現在高は1755万円で3年ぶりの増加

二人以上の世帯における2019年平均の1世帯当たり貯蓄現在高（平均値）¹は1755万円で、前年に比べ3万円、0.2%の増加となり、3年ぶりの増加となっている。貯蓄保有世帯全体を二分する中央値は1033万円（前年1036万円）となっている。また、年間収入は629万円で、前年に比べ7万円、1.1%の増加となり、貯蓄年収比（貯蓄現在高の年間収入に対する比）は279.0%で、前年に比べ2.7ポイントの低下となっている。

1 貯蓄現在高が「0」の世帯を含めた平均値

（図I-1-1，表I-1-1）

図I-1-1 貯蓄現在高の推移（二人以上の世帯）



注) () 内は、対前年増減率 (%)

表I-1-1 貯蓄現在高の推移（二人以上の世帯）

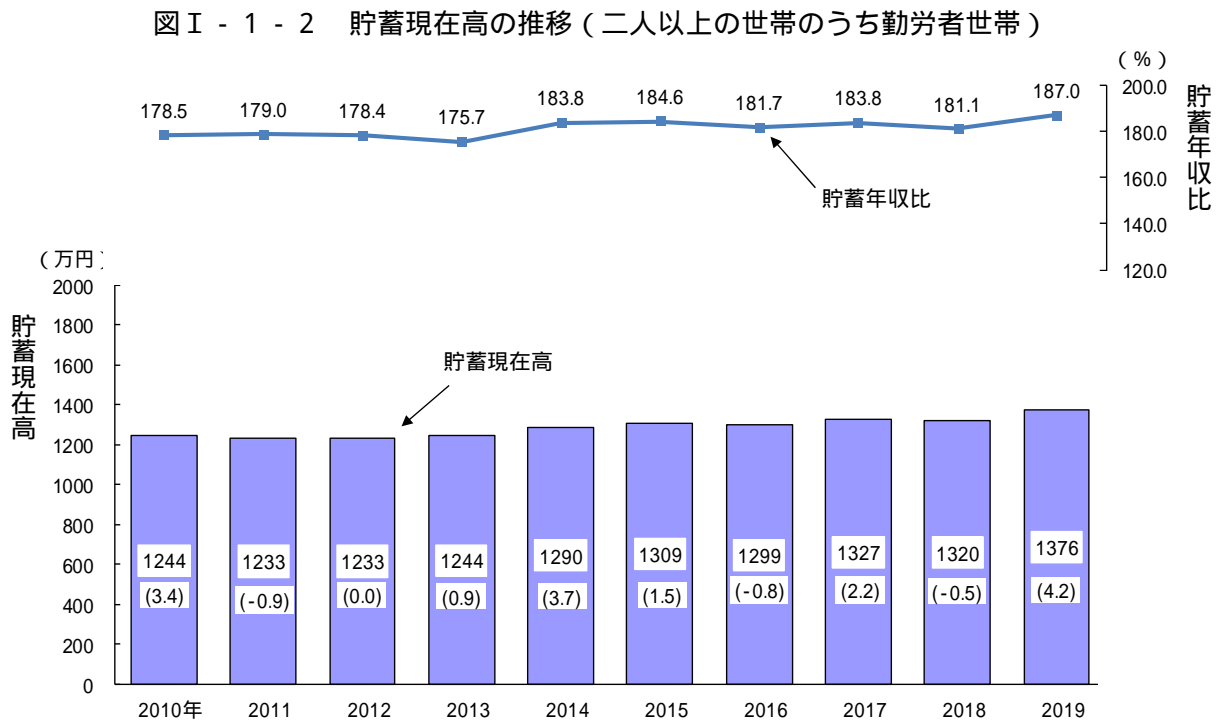
年次	貯蓄現在高 (1) (万円)	年間収入 (2) (万円)	対前年増減率		貯蓄年収比 (1)/(2) (%)	貯蓄保有世帯の中央値 ² (万円)
			貯蓄現在高 (%)	年間収入 (%)		
2010年	1657	616	1.2	-2.2	269.0	995
2011年	1664	612	0.4	-0.6	271.9	991
2012年	1658	606	-0.4	-1.0	273.6	1001
2013年	1739	616	4.9	1.7	282.3	1023
2014年	1798	614	3.4	-0.3	292.8	1052
2015年	1805	616	0.4	0.3	293.0	1054
2016年	1820	614	0.8	-0.3	296.4	1064
2017年	1812	617	-0.4	0.5	293.7	1074
2018年	1752	622	-3.3	0.8	281.7	1036
2019年	1755	629	0.2	1.1	279.0	1033 (967)

2 貯蓄保有世帯の中央値とは、貯蓄現在高が「0」の世帯（以下「貯蓄「0」世帯」という。）を除いた世帯を貯蓄現在高の低い方から順番に並べたときに、ちょうど中央に位置する世帯の貯蓄現在高をいう。
() 内は、2019年の貯蓄「0」世帯を含めた中央値（参考値）

このうち勤労者世帯（二人以上の世帯に占める割合55.6%）についてみると，貯蓄現在高（平均値）¹は1376万円で，前年に比べ56万円，4.2%の増加となり，貯蓄保有世帯の中央値は801万円（前年798万円）となっている。二人以上の世帯全体と比べると，平均値，貯蓄保有世帯の中央値共に低くなっている。また，年間収入は736万円で，前年に比べ7万円，1.0%の増加となり，貯蓄年収比は187.0%で，前年に比べ5.9ポイントの上昇となっている。

1 貯蓄現在高が「0」の世帯を含めた平均値

（図I-1-2，表I-1-2）



注)()内は，対前年増減率(%)

表I-1-2 貯蓄現在高の推移（二人以上の世帯のうち勤労者世帯）

年次	貯蓄現在高 (1) (万円)	年間収入 (2) (万円)	対前年増減率		貯蓄年収比 (1)/(2) (%)	貯蓄保有世帯の中央値 ² (万円)
			貯蓄現在高 (%)	年間収入 (%)		
2010年	1244	697	3.4	-1.7	178.5	743
2011	1233	689	-0.9	-1.1	179.0	729
2012	1233	691	0.0	0.3	178.4	757
2013	1244	708	0.9	2.5	175.7	735
2014	1290	702	3.7	-0.8	183.8	741
2015	1309	709	1.5	1.0	184.6	761
2016	1299	715	-0.8	0.8	181.7	734
2017	1327	722	2.2	1.0	183.8	792
2018	1320	729	-0.5	1.0	181.1	798
2019	1376	736	4.2	1.0	187.0	801 (751)

2 貯蓄保有世帯の中央値とは，貯蓄「0」世帯を除いた世帯を貯蓄現在高の低い方から順番に並べたときに，ちょうど中央に位置する世帯の貯蓄現在高をいう。()内は，2019年の貯蓄「0」世帯を含めた中央値(参考値)。

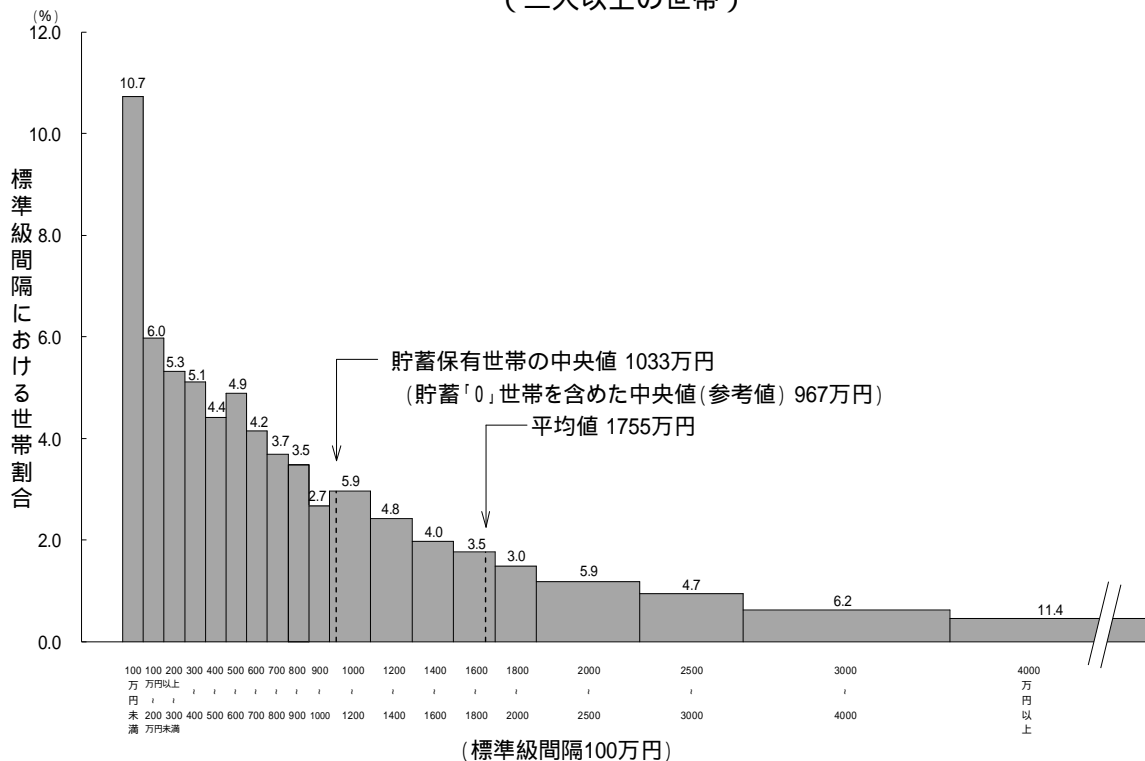
(2) 貯蓄現在高が平均値（1755万円）を下回る世帯が約3分の2を占める

二人以上の世帯について貯蓄現在高階級別の世帯分布をみると、貯蓄現在高の平均値（1755万円）を下回る世帯が67.9%（前年67.7%）と約3分の2を占めており、貯蓄現在高の低い階級に偏った分布となっている。

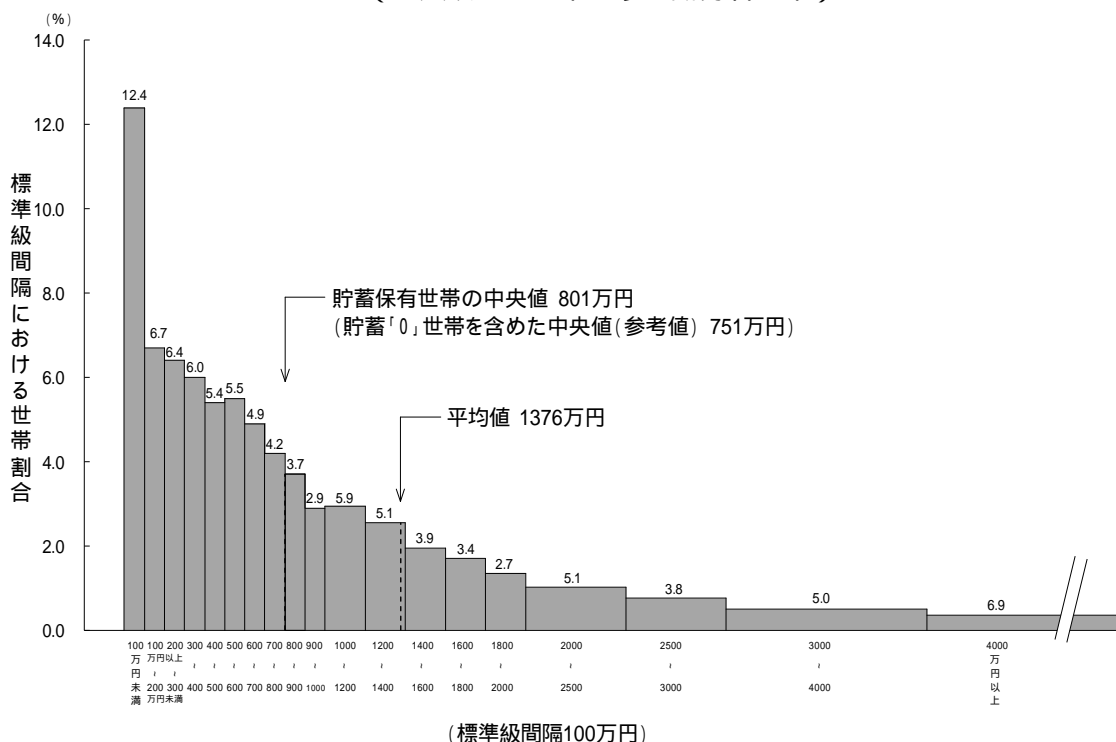
(図I-1-3)

図I-1-3 貯蓄現在高階級別世帯分布 - 2019年 -

(二人以上の世帯)



(二人以上の世帯のうち勤労者世帯)



注) 標準級間隔100万円（1000万円未満）の各階級の度数は縦軸目盛りと一致するが、1000万円以上の各階級の度数は階級の間隔が標準級間隔よりも広いため、縦軸目盛りとは一致しない。

2 貯蓄の種類別内訳

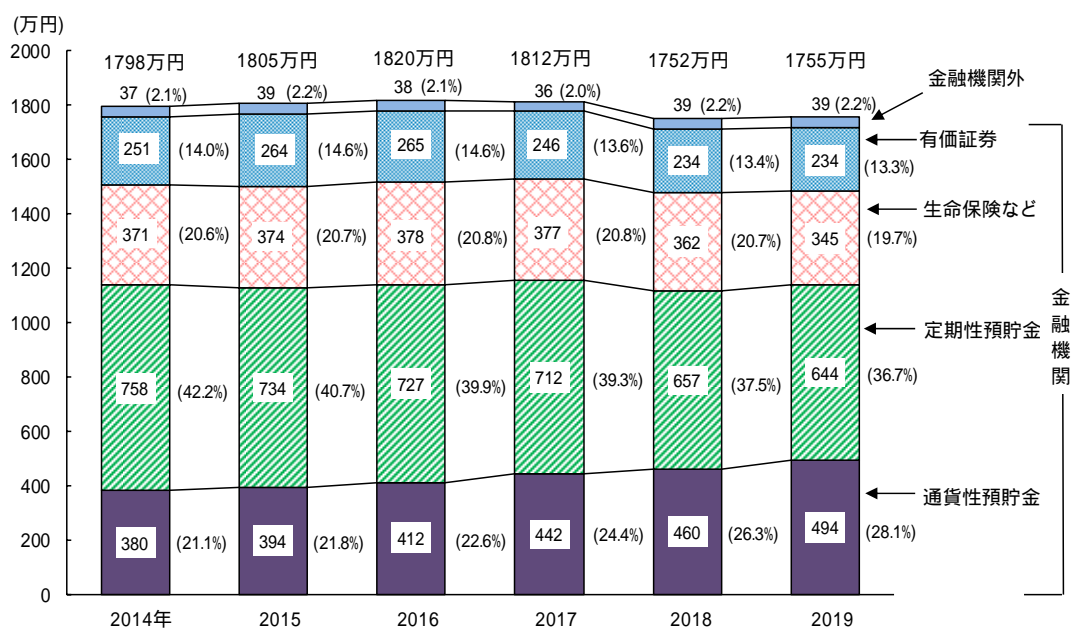
通貨性預貯金は11年連続の増加

二人以上の世帯について貯蓄の種類別に1世帯当たり貯蓄現在高をみると、定期性預貯金が644万円（貯蓄現在高に占める割合36.7%）と最も多く、次いで通貨性預貯金が494万円（同28.1%）、「生命保険など」が345万円（同19.7%）、有価証券が234万円（同13.3%）、金融機関外が39万円（同2.2%）となっている。

2018年と比べると、通貨性預貯金は、前年に比べ34万円、7.4%の増加となり、11年連続の増加となっている。一方で、定期性預貯金は、前年に比べ13万円、2.0%の減少となり、5年連続の減少となっている。

（図I-2-1、表I-2-1）

図I-2-1 貯蓄の種類別貯蓄現在高及び構成比の推移（二人以上の世帯）



注) ()内は、貯蓄現在高に占める割合

表I-2-1 貯蓄の種類別貯蓄現在高の推移（二人以上の世帯）

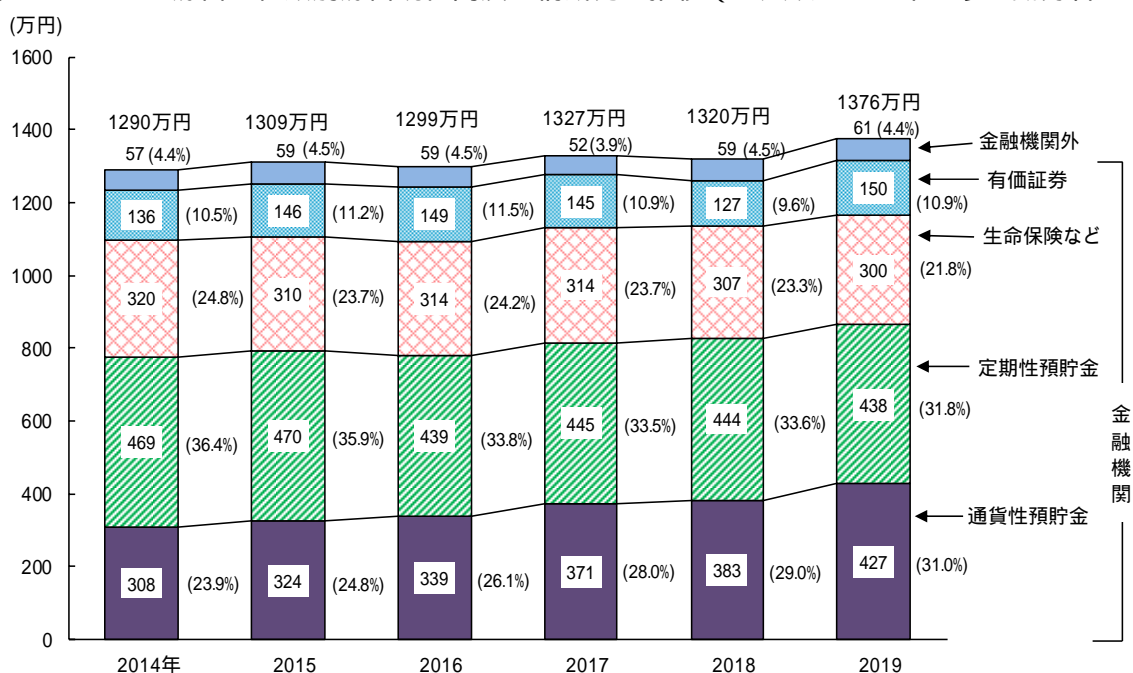
年次	貯蓄現在高	金融機関								金融機関外
		通貨性預貯金	定期性預貯金	生命保険など	有価証券	株式投資信託	貸付信託・金銭信託	債券・公社債投資信託		
金額 (万円)										
2014年	1798	380	758	371	251	175	12	64	37	
2015年	1805	394	734	374	264	192	13	59	39	
2016年	1820	412	727	378	265	197	17	51	38	
2017年	1812	442	712	377	246	188	13	45	36	
2018年	1752	460	657	362	234	178	11	45	39	
2019年	1755	494	644	345	234	179	12	42	39	
構成比 (%)										
2014年	100.0	21.1	42.2	20.6	14.0	9.7	0.7	3.6	2.1	
2015年	100.0	21.8	40.7	20.7	14.6	10.6	0.7	3.3	2.2	
2016年	100.0	22.6	39.9	20.8	14.6	10.8	0.9	2.8	2.1	
2017年	100.0	24.4	39.3	20.8	13.6	10.4	0.7	2.5	2.0	
2018年	100.0	26.3	37.5	20.7	13.4	10.2	0.6	2.6	2.2	
2019年	100.0	28.1	36.7	19.7	13.3	10.2	0.7	2.4	2.2	
対前年増減率 (%)										
2015年	0.4	0.2	3.7	-3.2	0.8	5.2	9.7	8.3	-7.8	5.4
2016年	0.8	1.0	4.6	-1.0	1.1	0.4	2.6	30.8	-13.6	-2.6
2017年	-0.4	-0.3	7.3	-2.1	-0.3	-7.2	-4.6	-23.5	-11.8	-5.3
2018年	-3.3	-3.7	4.1	-7.7	-4.0	-4.9	-5.3	-15.4	0.0	8.3
2019年	0.2	0.2	7.4	-2.0	-4.7	0.0	0.6	9.1	-6.7	0.0

このうち勤労者世帯についてみると、定期性預貯金が438万円（貯蓄現在高に占める割合31.8%）と最も多く、次いで通貨性預貯金が427万円（同31.0%）、「生命保険など」が300万円（同21.8%）、有価証券が150万円（同10.9%）、金融機関外が61万円（同4.4%）となっている。

2018年と比べると、通貨性預貯金、有価証券及び金融機関外は増加となっている。通貨性預貯金は、前年に比べ44万円、11.5%の増加となり、比較可能な2003年以降増加が続いている。一方で、定期性預貯金及び「生命保険など」は減少となっている。定期性預貯金は、前年に比べ6万円、1.4%の減少となり、2年連続の減少となっている。

（図I-2-2，表I-2-2）

図I-2-2 貯蓄の種類別貯蓄現在高及び構成比の推移（二人以上の世帯のうち勤労者世帯）



注) ()内は、貯蓄現在高に占める割合

表I-2-2 貯蓄の種類別貯蓄現在高の推移（二人以上の世帯のうち勤労者世帯）

年次	貯蓄現在高	金融機関									金融機関外
		通貨性預貯金	定期性預貯金	生命保険など	有価証券	株式・株式投資信託	貸付信託・金銭信託	債券・公社債投資信託	金融機関	金融機関外	
金額 (万円)											
2014年	1290	1233	308	469	320	136	101	6	29	57	
2015年	1309	1250	324	470	310	146	113	7	26	59	
2016年	1299	1241	339	439	314	149	115	12	22	59	
2017年	1327	1274	371	445	314	145	112	9	24	52	
2018年	1320	1260	383	444	307	127	98	4	25	59	
2019年	1376	1316	427	438	300	150	119	7	24	61	
構成比 (%)											
2014年	100.0	95.6	23.9	36.4	24.8	10.5	7.8	0.5	2.2	4.4	
2015年	100.0	95.5	24.8	35.9	23.7	11.2	8.6	0.5	2.0	4.5	
2016年	100.0	95.5	26.1	33.8	24.2	11.5	8.9	0.9	1.7	4.5	
2017年	100.0	96.0	28.0	33.5	23.7	10.9	8.4	0.7	1.8	3.9	
2018年	100.0	95.5	29.0	33.6	23.3	9.6	7.4	0.3	1.9	4.5	
2019年	100.0	95.6	31.0	31.8	21.8	10.9	8.6	0.5	1.7	4.4	
対前年増減率 (%)											
2015年	1.5	1.4	5.2	0.2	-3.1	7.4	11.9	16.7	-10.3	3.5	
2016年	-0.8	-0.7	4.6	-6.6	1.3	2.1	1.8	71.4	-15.4	0.0	
2017年	2.2	2.7	9.4	1.4	0.0	-2.7	-2.6	-25.0	9.1	-11.9	
2018年	-0.5	-1.1	3.2	-0.2	-2.2	-12.4	-12.5	-55.6	4.2	13.5	
2019年	4.2	4.4	11.5	-1.4	-2.3	18.1	21.4	75.0	-4.0	3.4	

II 負債の状況

1 概況

負債現在高は570万円の前年に比べ2.2%の増加

二人以上の世帯における2019年平均の1世帯当たり負債現在高（平均値）※1は570万円で、前年に比べ12万円、2.2%の増加となっている。負債年収比（負債現在高の年間収入に対する比）をみると、90.6%と前年に比べ0.9ポイントの上昇となっている。

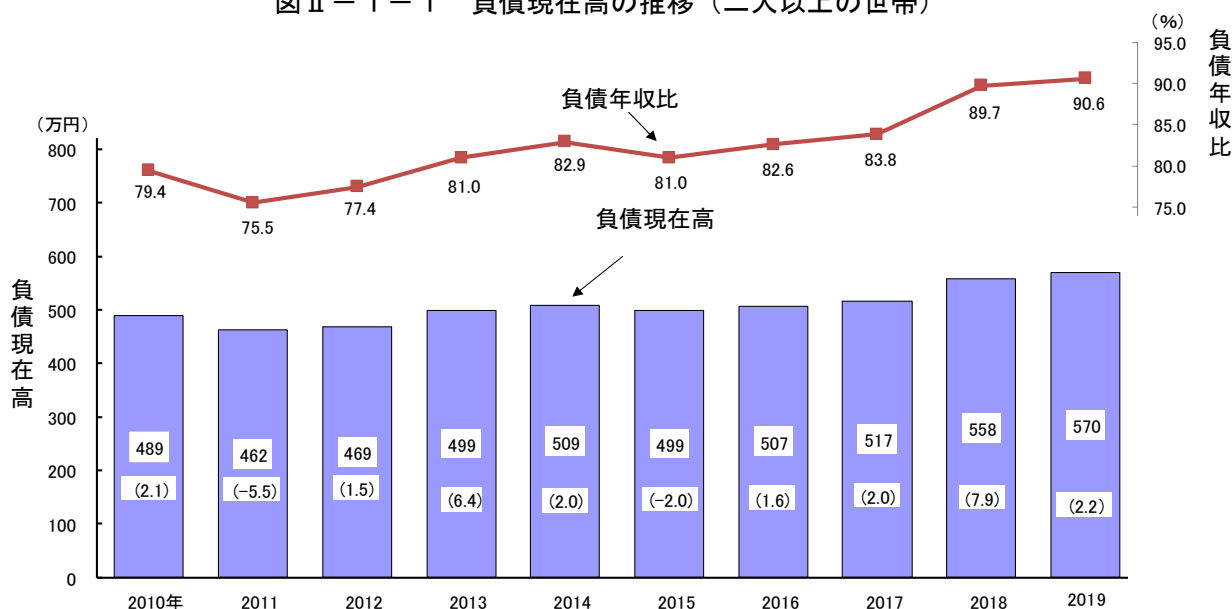
二人以上の世帯に占める負債保有世帯の割合は39.3%で、前年に比べ0.3ポイントの上昇となっている。

二人以上の世帯の負債保有世帯に限ってみると、負債現在高（平均値）は1451万円で、平均値を下回る世帯が54.9%を占めている。また、負債保有世帯を二分する中央値は、1218万円（前年1147万円）となっている。

※1 負債現在高が「0」の世帯を含めた平均値

（図II-1-1，表II-1-1，図II-1-3）

図II-1-1 負債現在高の推移（二人以上の世帯）



注) () 内は、対前年増減率 (%)

表II-1-1 負債現在高，負債保有世帯の負債現在高の推移（二人以上の世帯）

年次	負債現在高 (1) (万円)	年間収入 (2) (万円)	対前年増減率		負債保有世帯の割合 (%)	負債保有世帯の負債現在高 (万円)	負債保有世帯の中央値※2 (万円)
			負債現在高 (%)	年間収入 (%)			
2010年	489	616	2.1	-2.2	79.4	1223	859
2011	462	612	-5.5	-0.6	75.5	1207	888
2012	469	606	1.5	-1.0	77.4	1208	862
2013	499	616	6.4	1.7	81.0	1291	981
2014	509	614	2.0	-0.3	82.9	1349	1019
2015	499	616	-2.0	0.3	81.0	1310	976
2016	507	614	1.6	-0.3	82.6	1357	1006
2017	517	617	2.0	0.5	83.8	1379	1080
2018	558	622	7.9	0.8	89.7	1430	1147
2019	570	629	2.2	1.1	90.6	1451	1218

※2 負債保有世帯の中央値とは、負債現在高が「0」の世帯を除いた世帯を負債現在高の低い方から順番に並べたときに、ちょうど中央に位置する世帯の負債現在高をいう。

二人以上の世帯のうち勤労者世帯についてみると、負債現在高（平均値）※1は855万円で、前年に比べ34万円、4.1%の増加となっている。

負債年収比（負債現在高の年間収入に対する比）をみると、116.2%と前年に比べ3.6ポイントの上昇となっている。

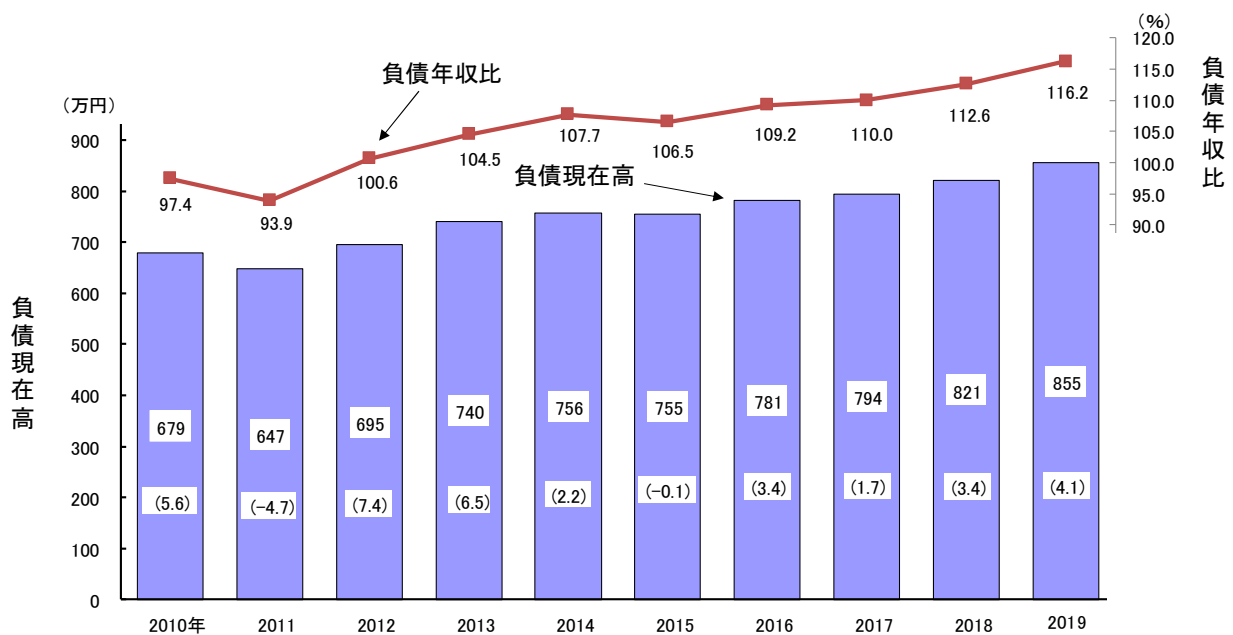
負債保有世帯の割合は55.3%で、前年に比べ0.7ポイントの上昇となっている。

負債保有世帯に限ってみると、負債現在高（平均値）は1548万円で、平均値を下回る世帯が51.9%を占めている。

※1 負債現在高が「0」の世帯を含めた平均値

(図Ⅱ-1-2, 表Ⅱ-1-2, 図Ⅱ-1-3)

図Ⅱ-1-2 負債現在高の推移（二人以上の世帯のうち勤労者世帯）



注) () 内は、対前年増減率 (%)

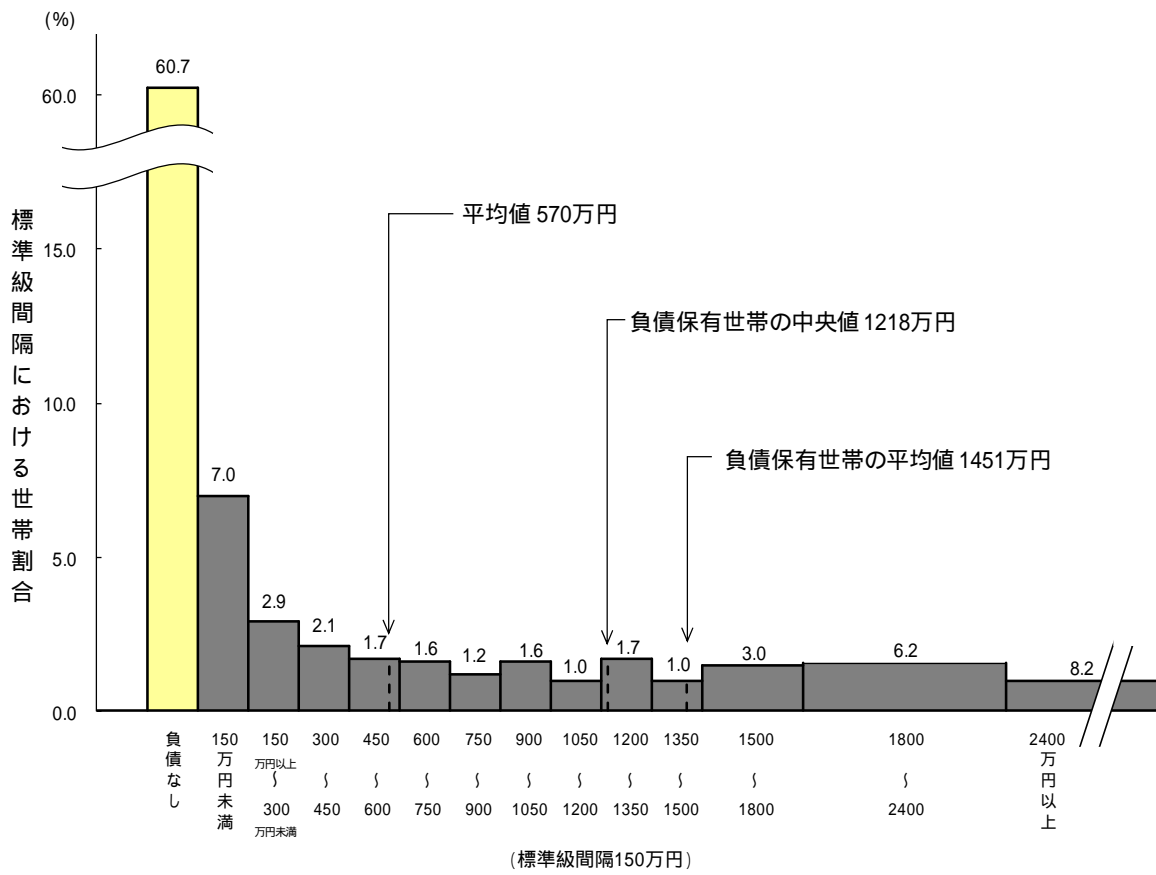
表Ⅱ-1-2 負債現在高、負債保有世帯の負債現在高の推移（二人以上の世帯のうち勤労者世帯）

年次	負債現在高 (1) (万円)	年間収入 (2) (万円)	対前年増減率		負債年収比 (1)/(2) (%)	負債保有世帯の割合 (%)	負債保有世帯の負債現在高 (万円)	負債保有世帯の中央値※2 (万円)
			負債現在高 (%)	年間収入 (%)				
2010年	679	697	5.6	-1.7	97.4	52.8	1287	1036
2011	647	689	-4.7	-1.1	93.9	51.9	1246	1035
2012	695	691	7.4	0.3	100.6	53.5	1300	1077
2013	740	708	6.5	2.5	104.5	54.0	1369	1180
2014	756	702	2.2	-0.8	107.7	52.9	1428	1255
2015	755	709	-0.1	1.0	106.5	53.8	1403	1195
2016	781	715	3.4	0.8	109.2	53.9	1449	1313
2017	794	722	1.7	1.0	110.0	54.1	1467	1315
2018	821	729	3.4	1.0	112.6	54.6	1505	1356
2019	855	736	4.1	1.0	116.2	55.3	1548	1449

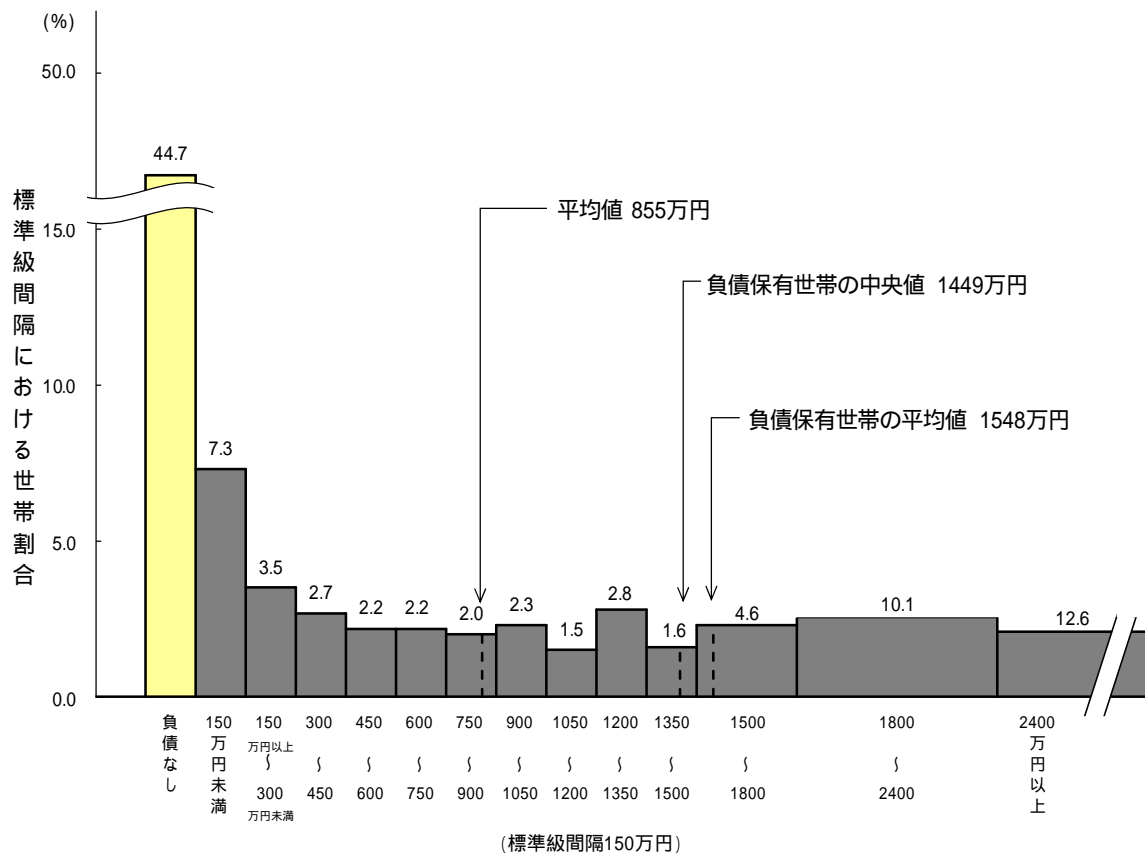
※2 負債保有世帯の中央値とは、負債現在高が「0」の世帯を除いた世帯を負債現在高の低い方から順番に並べたときに、ちょうど中央に位置する世帯の負債現在高をいう。

図 - 1 - 3 負債現在高階級別世帯分布 - 2019年 -

(二人以上の世帯)



(二人以上の世帯のうち勤労者世帯)



注) 標準級間隔 150 万円 (1500 万円未満) の各階級の度数は縦軸目盛りと一致するが、1500 万円以上の各階級の度数は階級の間隔が標準級間隔よりも広いので、縦軸目盛りとは一致しない。

2 負債の種類別内訳

住宅・土地のための負債は518万円で前年に比べ3.4%の増加

二人以上の世帯について負債の種類別に負債現在高をみると、負債現在高の約9割(90.9%)を占める住宅・土地のための負債は518万円で、前年に比べ17万円、3.4%の増加となっている。

このうち勤労者世帯についてみると、住宅・土地のための負債は798万円で、前年に比べ37万円、4.9%の増加となっている。

二人以上の世帯の住宅・土地のための負債について、借入先の内訳をみると、公的機関は58万円で、前年に比べ13万円、18.3%の減少となっている。一方、民間機関は448万円で、前年に比べ28万円、6.7%の増加となっている。

このうち勤労者世帯についてみると、公的機関は87万円で、前年に比べ17万円、16.3%の減少となっている。一方、民間機関は691万円で、前年に比べ51万円、8.0%の増加となっている。

(表 - 2 - 1)

表 - 2 - 1 負債の種類別負債現在高

項 目	二 人 以 上 の 世 帯				
	2018年	2019年			
	金額 (万円)	金額 (万円)	構成比 (%)	対前年 増減率 (%)	負債保有 世帯割合 (%)
負債現在高	558	570	100.0	2.2	39.3
住宅・土地のための負債	501	518	90.9	3.4	29.7
公的機関	71	58	10.2	-18.3	3.9
民間機関	420	448	78.6	6.7	25.3
その他	10	13	2.3	30.0	1.6
住宅・土地以外の負債	40	36	6.3	-10.0	8.0
公的機関	5	6	1.1	20.0	1.7
民間機関	32	27	4.7	-15.6	5.7
その他	3	3	0.5	0.0	1.6
月賦・年賦	18	16	2.8	-11.1	13.3

項 目	二 人 以 上 の 世 帯 の う ち 勤 労 者 世 帯				
	2018年	2019年			
	金額 (万円)	金額 (万円)	構成比 (%)	対前年 増減率 (%)	負債保有 世帯割合 (%)
負債現在高	821	855	100.0	4.1	55.3
住宅・土地のための負債	761	798	93.3	4.9	44.8
公的機関	104	87	10.2	-16.3	5.5
民間機関	640	691	80.8	8.0	38.5
その他	16	20	2.3	25.0	2.2
住宅・土地以外の負債	37	36	4.2	-2.7	10.4
公的機関	5	6	0.7	20.0	2.2
民間機関	29	27	3.2	-6.9	7.2
その他	3	3	0.4	0.0	2.1
月賦・年賦	23	21	2.5	-8.7	17.0

世帯属性別にみた貯蓄・負債の状況

1 世帯主の年齢階級別

(1) 世帯主が50歳未満の世帯では負債現在高が貯蓄現在高を上回る

二人以上の世帯について世帯主の年齢階級別に1世帯当たり貯蓄現在高をみると、40歳未満の世帯が691万円と最も少なく、60歳以上の各年齢階級では2000万円を超える貯蓄現在高となっている。

負債現在高をみると、40歳未満の世帯が1341万円と最も多く、年齢階級が高くなるに従って負債現在高が少なくなっている。また、負債保有世帯の割合は、40～49歳の世帯が66.2%と最も高く、40歳以上の世帯では年齢階級が高くなるに従って割合が低くなっている。

純貯蓄額（貯蓄現在高 - 負債現在高）をみると、50歳以上の各年齢階級では貯蓄現在高が負債現在高を上回っており、70歳以上の世帯の純貯蓄額は2183万円と最も多くなっている。一方、50歳未満の世帯では負債現在高が貯蓄現在高を上回っており、負債超過となっている。

(図 - 1 - 1, 表 - 1 - 1)

図 - 1 - 1 世帯主の年齢階級別貯蓄・負債現在高，負債保有世帯の割合
(二人以上の世帯) - 2019年 -

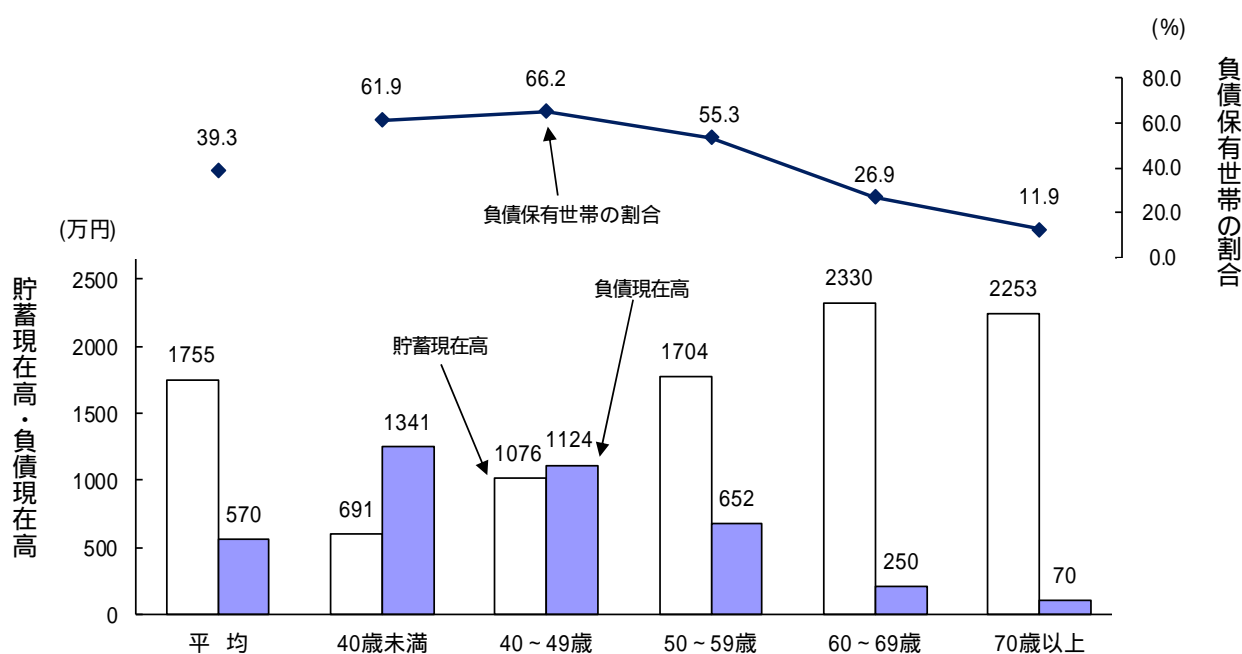


表 - 1 - 1 世帯主の年齢階級別貯蓄・負債現在高の推移（二人以上の世帯）

年次	平均	40歳未満	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
貯蓄現在高(万円)						
2014年	1798	562	1030	1663	2484	2452
2015	1805	608	1024	1751	2402	2389
2016	1820	574	1065	1802	2312	2446
2017	1812	602	1074	1699	2382	2385
2018	1752	600	1012	1778	2327	2249
2019	1755	691	1076	1704	2330	2253
対前年増減率(%)						
2015年	0.4	8.2	-0.6	5.3	-3.3	-2.6
2016	0.8	-5.6	4.0	2.9	-3.7	2.4
2017	-0.4	4.9	0.8	-5.7	3.0	-2.5
2018	-3.3	-0.3	-5.8	4.6	-2.3	-5.7
2019	0.2	15.2	6.3	-4.2	0.1	0.2
年間収入(万円)						
2019年	629	635	767	852	590	435
貯蓄年収比(貯蓄現在高/年間収入)(%)						
2019年	279.0	108.8	140.3	200.0	394.9	517.9
負債現在高(万円)						
2014年	509	934	1051	654	213	78
2015	499	942	1068	645	196	83
2016	507	1098	1047	591	220	90
2017	517	1123	1055	617	205	121
2018	558	1248	1105	683	207	104
2019	570	1341	1124	652	250	70
対前年増減率(%)						
2015年	-2.0	0.9	1.6	-1.4	-8.0	6.4
2016	1.6	16.6	-2.0	-8.4	12.2	8.4
2017	2.0	2.3	0.8	4.4	-6.8	34.4
2018	7.9	11.1	4.7	10.7	1.0	-14.0
2019	2.2	7.5	1.7	-4.5	20.8	-32.7
住宅・土地のための負債(万円)						
2014年	458	883	975	558	178	59
2015	446	896	994	536	158	63
2016	452	1041	974	490	182	62
2017	463	1057	988	540	162	86
2018	501	1184	1031	588	163	75
2019	518	1283	1052	578	190	51
負債保有世帯の割合(%)						
2014年	37.8	54.9	62.3	53.1	26.1	11.8
2015	38.1	52.6	64.6	54.6	27.1	12.4
2016	37.3	57.7	62.8	52.9	27.1	11.2
2017	37.5	59.3	64.8	53.2	26.3	11.4
2018	39.0	61.5	65.4	53.5	26.8	12.5
2019	39.3	61.9	66.2	55.3	26.9	11.9
純貯蓄額(貯蓄現在高 - 負債現在高)(万円) ¹						
2014年	1289	-372	-21	1009	2271	2374
2015	1306	-334	-44	1106	2206	2306
2016	1313	-524	18	1211	2092	2356
2017	1295	-521	19	1082	2177	2264
2018	1194	-648	-93	1095	2120	2145
2019	1185	-650	-48	1052	2080	2183
世帯数分布(%) ²						
2019年	100.0	12.2	19.6	17.2	21.3	29.7

1 マイナスは、負債超過額を示す。

2 貯蓄・負債編は、貯蓄・負債不詳世帯を除いて集計している。このため、世帯数分布は家計収支編の世帯数分布とは必ずしも一致しない。

(2) 負債保有世帯のうち負債超過額が最も多いのは世帯主が40歳未満の世帯

二人以上の世帯のうち負債保有世帯について世帯主の年齢階級別に貯蓄現在高をみると、40歳未満の世帯が670万円と最も少なくなっているのに対し、60歳以上の世帯は1510万円と最も多くなっており、年齢階級が高くなるに従って貯蓄現在高は多くなっている。

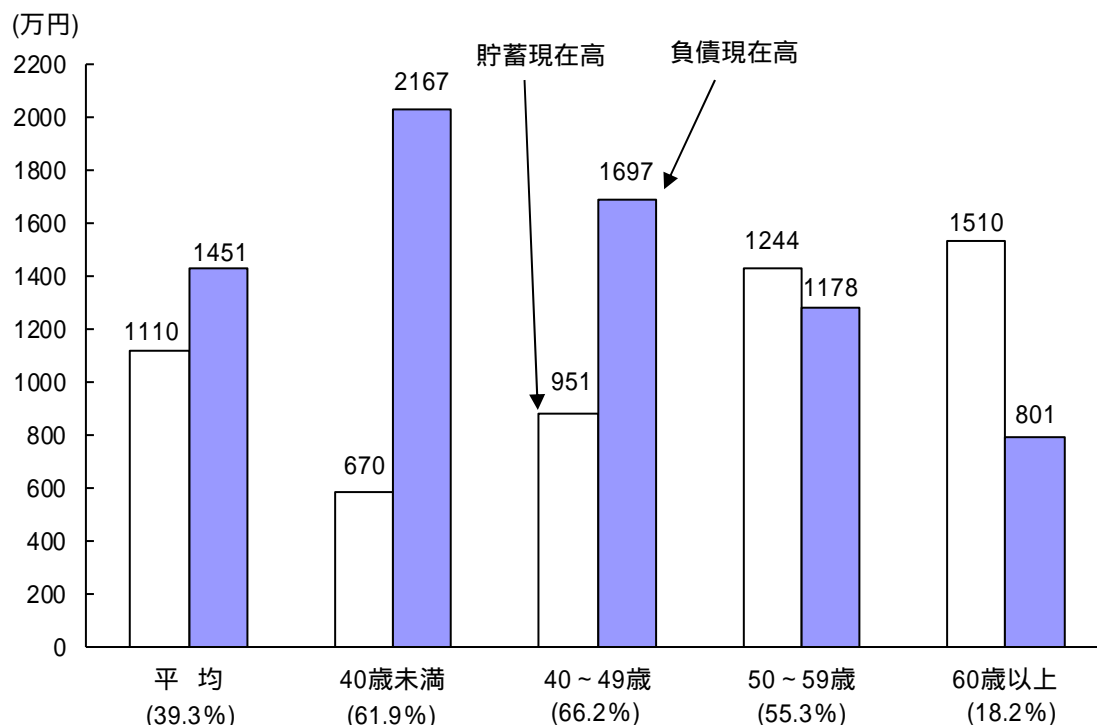
負債現在高をみると、40歳未満の世帯が2167万円と最も多く、年齢階級が高くなるに従って負債現在高は少なくなっている。

純貯蓄額をみると、50歳未満の各年齢階級で負債現在高が貯蓄現在高を上回っており、40歳未満の世帯の負債超過額が1497万円と最も多くなっている。一方、50歳以上の各年齢階級では貯蓄現在高が負債現在高を上回っており、60歳以上の世帯の純貯蓄額は709万円となっている。

40歳未満の世帯について2018年と比べると、貯蓄現在高は、前年に比べ85万円、14.5%の増加となっている。一方、負債現在高は、前年に比べ138万円、6.8%の増加となり、負債現在高の約9割を占める住宅・土地のための負債は2073万円で、前年に比べ149万円、7.7%の増加となっている。

(図 - 1 - 2, 表 - 1 - 2)

図 - 1 - 2 世帯主の年齢階級別貯蓄・負債現在高
(二人以上の世帯のうち負債保有世帯) - 2019年 -



注) ()内は、当該階級ごとの二人以上の世帯に占める負債保有世帯の割合

表 - 1 - 2 世帯主の年齢階級別貯蓄・負債現在高の推移
(二人以上の世帯のうち負債保有世帯)

年次	平均	40歳未満	40～49歳	50～59歳	60歳以上
貯蓄現在高(万円)					
2014年	1124	499	879	1286	1767
2015	1128	528	860	1324	1654
2016	1111	543	912	1346	1551
2017	1142	533	924	1414	1628
2018	1119	585	880	1428	1530
2019	1100	670	951	1244	1510
対前年増減率(%)					
2015年	0.4	5.8	-2.2	3.0	-6.4
2016	-1.5	2.8	6.0	1.7	-6.2
2017	2.8	-1.8	1.3	5.1	5.0
2018	-2.0	9.8	-4.8	1.0	-6.0
2019	-1.7	14.5	8.1	-12.9	-1.3
年間収入(万円)					
2019年	747	661	791	884	615
貯蓄年収比(貯蓄現在高/年間収入)(%)					
2019年	147.3	101.4	120.2	140.7	245.5
負債現在高(万円)					
2014年	1349	1705	1687	1231	762
2015	1310	1796	1653	1181	708
2016	1357	1898	1669	1116	810
2017	1379	1893	1629	1159	885
2018	1430	2029	1689	1277	794
2019	1451	2167	1697	1178	801
対前年増減率(%)					
2015年	-2.9	5.3	-2.0	-4.1	-7.1
2016	3.6	5.7	1.0	-5.5	14.4
2017	1.6	-0.3	-2.4	3.9	9.3
2018	3.7	7.2	3.7	10.2	-10.3
2019	1.5	6.8	0.5	-7.8	0.9
住宅・土地のための負債(万円)					
2014年	1214	1612	1566	1051	621
2015	1170	1710	1538	982	559
2016	1211	1800	1553	926	632
2017	1235	1783	1525	1015	666
2018	1283	1924	1576	1100	604
2019	1318	2073	1587	1045	601
純貯蓄額(貯蓄現在高 - 負債現在高)(万円)					
2014年	-225	-1206	-808	55	1005
2015	-182	-1268	-793	143	946
2016	-246	-1355	-757	230	741
2017	-237	-1360	-705	255	743
2018	-311	-1444	-809	151	736
2019	-351	-1497	-746	66	709
世帯数分布(%)					
2019年	100.0	19.3	33.0	24.1	23.6

マイナスは、負債超過額を示す。

2 年間収入五分位階級別

(1) 年間収入が最も低い第 階級の世帯では定期性預貯金の割合が約 4 割

二人以上の世帯について年間収入五分位階級別^注に1世帯当たり貯蓄現在高をみると、年間収入が最も低い第 階級(世帯主の平均年齢69.0歳)が1334万円、年間収入が最も高い第 階級(同53.0歳)が2567万円となっている。

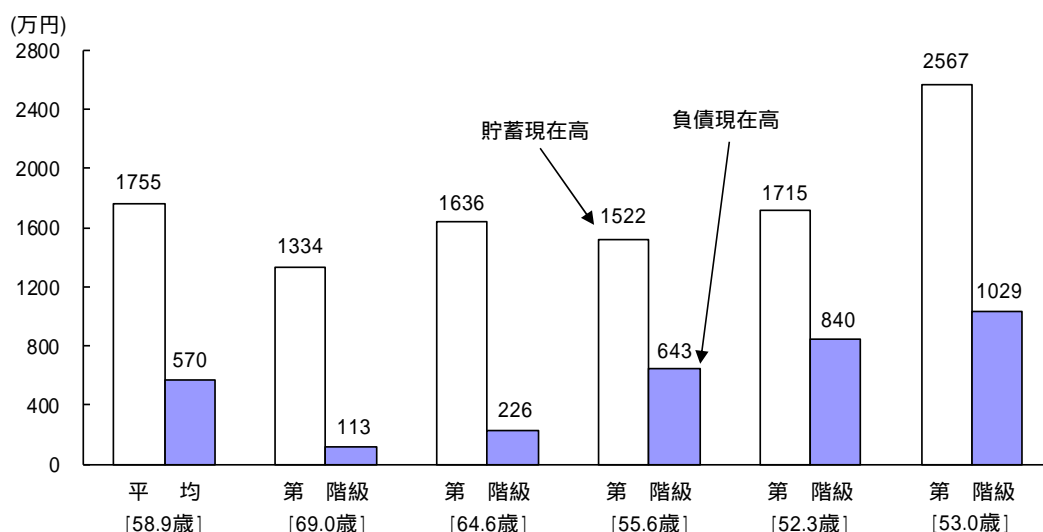
貯蓄の種類別貯蓄現在高の構成比をみると、通貨性預貯金は第 階級が30.2%と最も高く、第 階級が24.5%と最も低くなっている。定期性預貯金は第 階級及び第 階級が44.6%と最も高く、第 階級が29.8%と最も低くなっている。有価証券は第 階級が16.0%と最も高く、第 階級が11.1%と最も低くなっている。

負債現在高をみると、第 階級が113万円、第 階級が1029万円となっており、年間収入が高くなるに従って負債現在高が多くなっている。

(図 - 2 - 1, 図 - 2 - 2, 表 - 2 - 1)

注) 年間収入五分位階級とは、年間収入の低い方から高い世帯へと順に並べて5等分したもので、低い方から第 階級、第 階級、第 階級、第 階級、第 階級(五分位)階級という。

図 - 2 - 1 年間収入五分位階級別貯蓄・負債現在高(二人以上の世帯) - 2019年 -



注) []内は、世帯主の平均年齢

図 - 2 - 2 年間収入五分位階級，貯蓄の種類別貯蓄現在高の構成比(二人以上の世帯) - 2019年 -

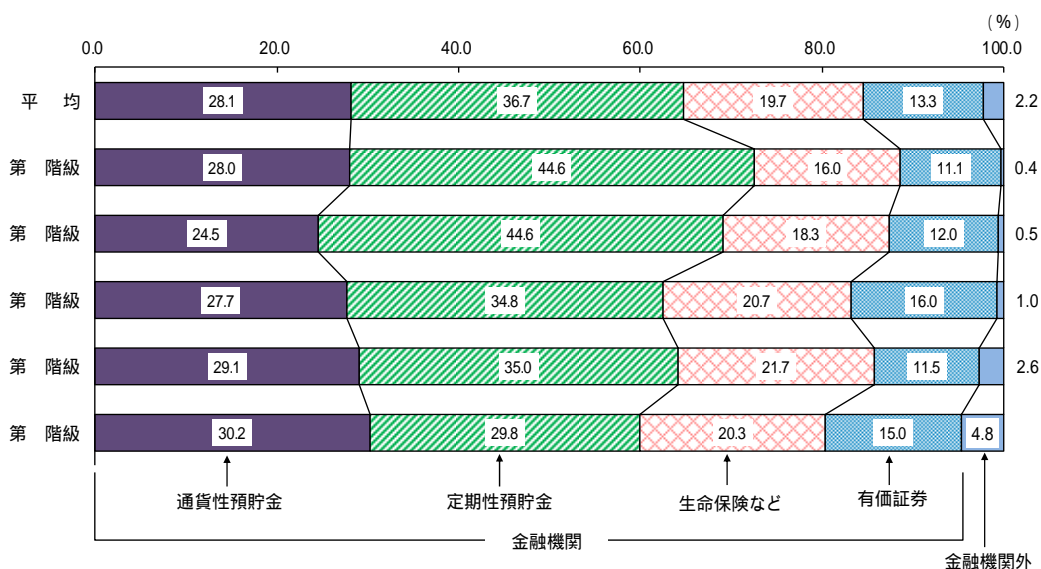


表 - 2 - 1 年間収入五分位階級，貯蓄・負債の種類別貯蓄・負債現在高

(二人以上の世帯) - 2019年 -

項 目	平 均	第 階級	第 階級	第 階級	第 階級	第 階級
		~ 329万円	329 ~ 458万円	458 ~ 625万円	625 ~ 863万円	863万円 ~
世帯人員(人)	2.99	2.41	2.70	3.06	3.30	3.47
世帯主の年齢(歳)	58.9	69.0	64.6	55.6	52.3	53.0
持家率(%)	84.8	83.5	84.6	83.1	85.1	87.9
年間収入	629	258	金額(万円) 391 539		735	1224
貯蓄現在高	1755	1334	金額(万円) 1636 1522		1715	2567
金融機関	1716	1329	1628	1508	1670	2445
通貨性預貯金	494	373	401	421	499	776
定期性預貯金	644	595	730	529	601	764
生命保険など	345	214	300	315	372	522
有価証券	234	148	197	243	198	384
金融機関外	39	5	8	15	44	122
貯蓄現在高	100.0	100.0	構成比(%) 100.0 100.0		100.0	100.0
金融機関	97.8	99.6	99.5	99.1	97.4	95.2
通貨性預貯金	28.1	28.0	24.5	27.7	29.1	30.2
定期性預貯金	36.7	44.6	44.6	34.8	35.0	29.8
生命保険など	19.7	16.0	18.3	20.7	21.7	20.3
有価証券	13.3	11.1	12.0	16.0	11.5	15.0
金融機関外	2.2	0.4	0.5	1.0	2.6	4.8
負債現在高	570	113	金額(万円) 226 643		840	1029
住宅・土地のための負債	518	86	205	585	777	937
住宅・土地以外の負債	36	21	10	36	43	70
月賦・年賦	16	6	11	22	20	22
負債現在高	100.0	100.0	構成比(%) 100.0 100.0		100.0	100.0
住宅・土地のための負債	90.9	76.1	90.7	91.0	92.5	91.1
住宅・土地以外の負債	6.3	18.6	4.4	5.6	5.1	6.8
月賦・年賦	2.8	5.3	4.9	3.4	2.4	2.1

(2) 勤労者世帯の貯蓄現在高は年間収入が高くなるに従って多い

二人以上の世帯のうち勤労者世帯について年間収入五分位階級別に1世帯当たり貯蓄現在高をみると、年間収入が最も低い第1階級（世帯主の平均年齢51.0歳）が834万円、年間収入が最も高い第5階級（同50.5歳）が2370万円となっており、年間収入が高くなるに従って貯蓄現在高が多くなっている。

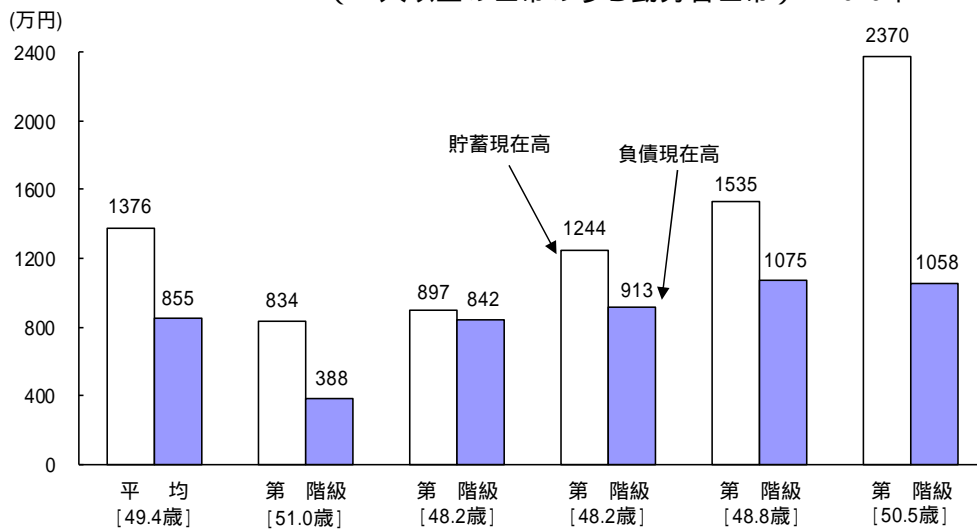
貯蓄の種類別貯蓄現在高の構成比をみると、通貨性預貯金は第1階級が33.4%と最も高く、第5階級が30.2%と最も低くなっている。定期性預貯金は第1階級が40.8%と最も高く、第5階級が28.4%と最も低くなっている。有価証券は第1階級が13.3%と最も高く、第5階級が6.5%と最も低くなっている。

負債現在高をみると、第1階級が388万円、第5階級が1058万円となっており、年間収入が高くなるに従って負債現在高が多くなる傾向にある。

(図 - 2 - 3, 図 - 2 - 4, 表 - 2 - 2)

図 - 2 - 3 年間収入五分位階級別貯蓄・負債現在高

(二人以上の世帯のうち勤労者世帯) - 2019年 -



注) []内は、世帯主の平均年齢

図 - 2 - 4 年間収入五分位階級，貯蓄の種類別貯蓄現在高の構成比

(二人以上の世帯のうち勤労者世帯) - 2019年 -

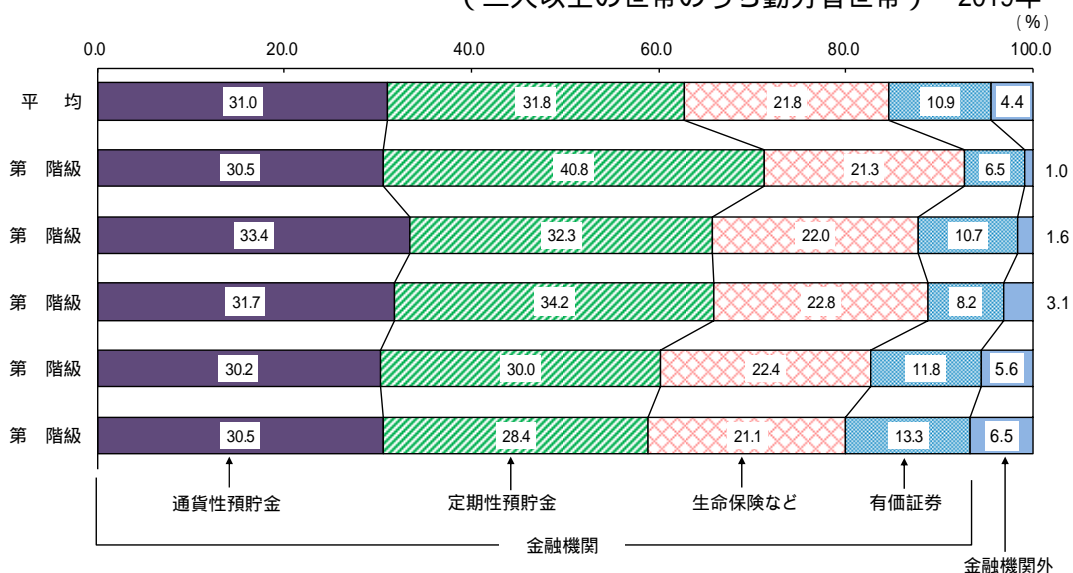


表 - 2 - 2 年間収入五分位階級，貯蓄・負債の種類別貯蓄・負債現在高

(二人以上の世帯のうち勤労者世帯) - 2019年 -

項 目	平 均	第 階級	第 階級	第 階級	第 階級	第 階級
		~ 458万円	458 ~ 599万円	599 ~ 757万円	757 ~ 969万円	969万円 ~
世帯人員(人)	3.32	2.99	3.29	3.39	3.45	3.49
世帯主の年齢(歳)	49.4	51.0	48.2	48.2	48.8	50.5
持家率(%)	79.5	68.0	76.8	81.0	86.2	85.5
年間収入		金 額(万円)				
	736	352	531	676	852	1270
貯蓄現在高		金 額(万円)				
金融機関	1376	834	897	1244	1535	2370
通貨性預貯金	1316	826	883	1206	1449	2214
定期性預貯金	427	254	300	394	464	724
生命保険など	438	340	290	426	460	674
有価証券	300	178	197	284	344	500
金融機関外	150	54	96	102	181	316
	61	8	14	39	86	155
貯蓄現在高		構 成 比(%)				
金融機関	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
通貨性預貯金	95.6	99.0	98.4	96.9	94.4	93.4
定期性預貯金	31.0	30.5	33.4	31.7	30.2	30.5
生命保険など	31.8	40.8	32.3	34.2	30.0	28.4
有価証券	21.8	21.3	22.0	22.8	22.4	21.1
金融機関外	10.9	6.5	10.7	8.2	11.8	13.3
	4.4	1.0	1.6	3.1	5.6	6.5
負債現在高		金 額(万円)				
住宅・土地のための負債	855	388	842	913	1075	1058
住宅・土地以外の負債	798	357	784	855	1008	985
月賦・年賦	36	15	33	38	43	52
	21	16	25	20	23	21
負債現在高		構 成 比(%)				
住宅・土地のための負債	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
住宅・土地以外の負債	93.3	92.0	93.1	93.6	93.8	93.1
月賦・年賦	4.2	3.9	3.9	4.2	4.0	4.9
	2.5	4.1	3.0	2.2	2.1	2.0

3 貯蓄現在高五分位階級別

貯蓄現在高が最も高い第 階級の世帯の有価証券の割合は約 2 割

二人以上の世帯について貯蓄現在高五分位階級別^注に貯蓄・負債現在高をみると、貯蓄現在高が多くなるに従って、負債現在高は少なくなる傾向にある。貯蓄の種類別割合をみると、貯蓄現在高が低い階級では、通貨性預貯金の割合が高くなっている。一方、貯蓄現在高が高い階級では、定期性預貯金及び有価証券の割合が高くなっている。貯蓄現在高が最も高い第 階級についてみると、有価証券の割合は約 2 割となっている。

(図 - 3 - 1 , 図 - 3 - 2 , 表 - 3 - 1)

注) 貯蓄現在高五分位階級とは、貯蓄現在高の低い方から高い世帯へと順に並べて 5 等分したもので、低い方から第 1 階級、第 2 階級、第 3 階級、第 4 階級、第 5 階級 (五分位) 階級という。

図 - 3 - 1 貯蓄現在高五分位階級別貯蓄・負債現在高 (二人以上の世帯) - 2019年 -

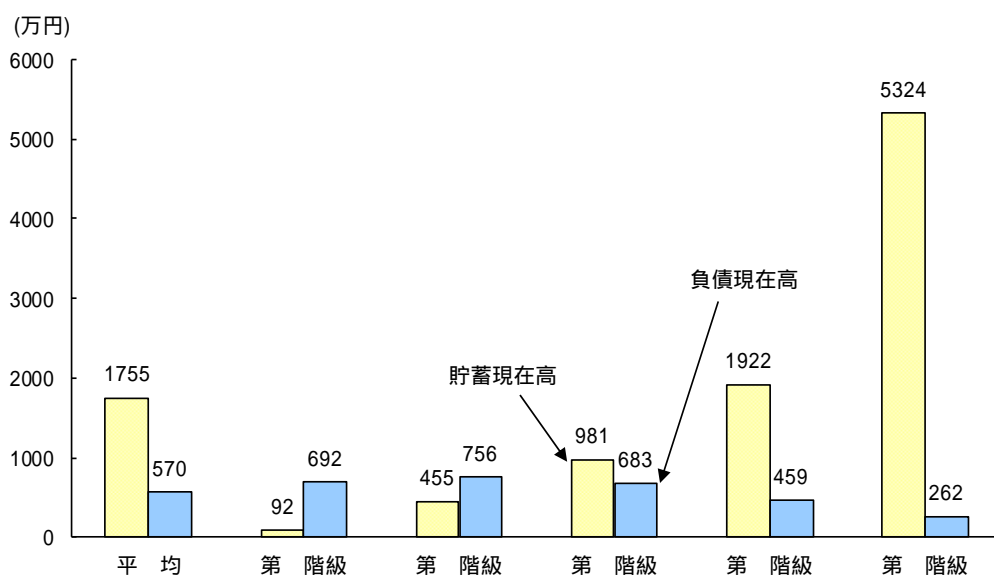


図 - 3 - 2 貯蓄現在高五分位階級，貯蓄の種類別貯蓄現在高の構成比

(二人以上の世帯) - 2019年 -

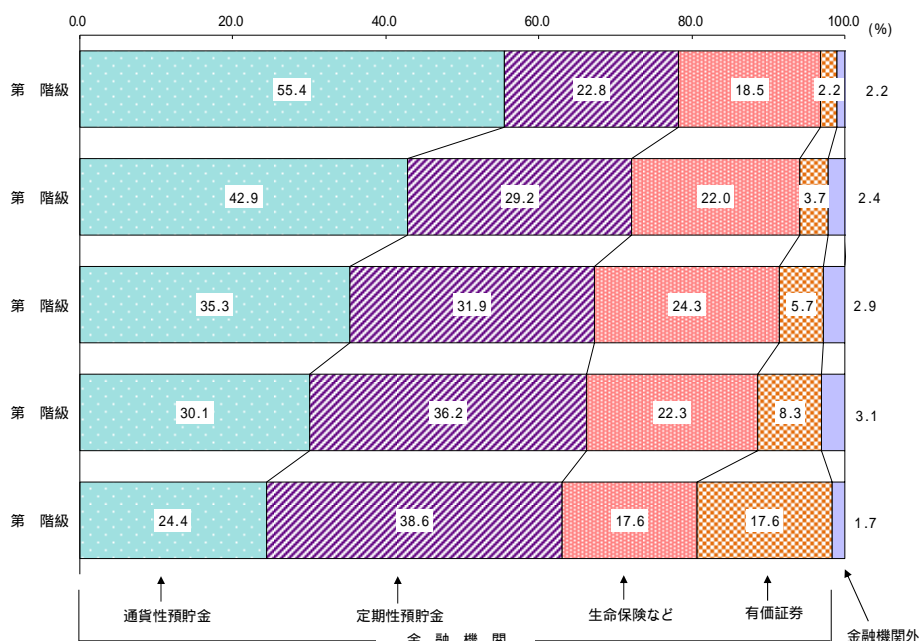


表 - 3 - 1 貯蓄現在高五分位階級，貯蓄の種類別貯蓄現在高（二人以上の世帯） - 2019年 -

項 目	平 均	第 階級	第 階級	第 階級	第 階級	第 階級
		~ 249万円	249 ~ 678万円	678 ~ 1348万円	1348 ~ 2702万円	2702万円 ~
金 額 (万円)						
貯 蓄 現 在 高	1755	92	455	981	1922	5324
金 融 機 関	1716	91	445	952	1862	5231
通貨性預貯金	494	51	195	346	578	1301
定期性預貯金	644	21	133	313	695	2056
生命保険など	345	17	100	238	429	939
有 価 証 券	234	2	17	56	160	935
金 融 機 関 外	39	2	11	28	60	93
(参考)年間収入	629	497	577	634	670	768
構 成 比 (%)						
貯 蓄 現 在 高	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
金 融 機 関	97.8	98.9	97.8	97.0	96.9	98.3
通貨性預貯金	28.1	55.4	42.9	35.3	30.1	24.4
定期性預貯金	36.7	22.8	29.2	31.9	36.2	38.6
生命保険など	19.7	18.5	22.0	24.3	22.3	17.6
有 価 証 券	13.3	2.2	3.7	5.7	8.3	17.6
金 融 機 関 外	2.2	2.2	2.4	2.9	3.1	1.7
構 成 比 の 対 前 年 変 化 幅 (ポ イ ン ト)						
貯 蓄 現 在 高						
金 融 機 関	0.1	0.0	0.5	0.3	-0.3	0.1
通貨性預貯金	1.8	-0.6	2.9	1.3	2.9	1.6
定期性預貯金	-0.8	-0.3	-2.5	-1.6	-2.7	0.1
生命保険など	-1.0	0.9	-0.7	0.7	-0.5	-1.6
有 価 証 券	-0.1	0.0	0.6	0.1	0.0	-0.1
金 融 機 関 外	0.0	0.0	-0.3	-0.4	0.3	-0.1

4 持家世帯（二人以上の世帯のうち勤労者世帯）

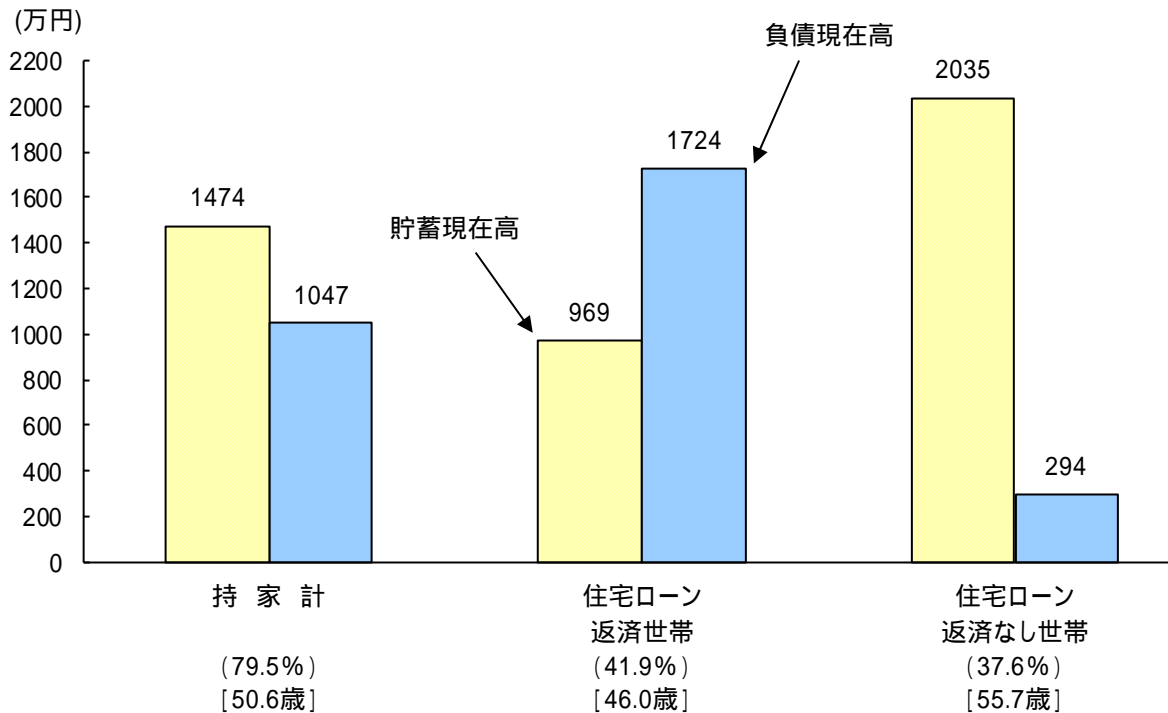
持家世帯のうち住宅ローン返済世帯の負債現在高は1724万円

二人以上の世帯の勤労者世帯のうち持家世帯（勤労者世帯に占める割合79.5%，世帯主の平均年齢50.6歳）について，住宅ローンの有無別に1世帯当たり貯蓄現在高をみると，住宅ローン返済世帯（同41.9%，同46.0歳）は969万円となっており，前年に比べ51万円，5.6%の増加となっている。住宅ローン返済なし世帯（同37.6%，同55.7歳）は2035万円となっており，前年に比べ14万円，0.7%の増加となっている。

同様に，負債現在高をみると，住宅ローン返済世帯は1724万円となっており，前年に比べ29万円，1.7%の増加となっている。住宅ローン返済なし世帯は294万円となっており，前年に比べ42万円，16.7%の増加となっている。

（図 - 4 - 1，表 - 4 - 1）

図 - 4 - 1 持家世帯の住宅ローンの有無別貯蓄・負債現在高
（二人以上の世帯のうち勤労者世帯） - 2019年 -



注) 1 ()内は，勤労者世帯に占める割合
2 []内は，世帯主の平均年齢

表 - 4 - 1 持家世帯の住宅ローンの有無別貯蓄・負債現在高の推移

(二人以上の世帯のうち勤労者世帯)

年次	金額(万円)			対前年増減率(%)		
	持家計	住宅ローン返済世帯	住宅ローン返済なし世帯	持家計	住宅ローン返済世帯	住宅ローン返済なし世帯
貯蓄現在高						
2014年	1462	903	2037	6.7	3.9	6.2
2015	1442	925	1962	-1.4	2.4	-3.7
2016	1424	906	1993	-1.2	-2.1	1.6
2017	1447	956	1962	1.6	5.5	-1.6
2018	1437	918	2021	-0.7	-4.0	3.0
2019	1474	969	2035	2.6	5.6	0.7
負債現在高						
2014年	971	1677	244	2.6	5.0	4.3
2015	959	1671	243	-1.2	-0.4	-0.4
2016	981	1649	247	2.3	-1.3	1.6
2017	978	1690	231	-0.3	2.5	-6.5
2018	1016	1695	252	3.9	0.3	9.1
2019	1047	1724	294	3.1	1.7	16.7
住宅・土地のための負債						
2014年	923	1611	215	3.9	6.3	6.4
2015	898	1585	207	-2.7	-1.6	-3.7
2016	909	1557	197	1.2	-1.8	-4.8
2017	919	1605	200	1.1	3.1	1.5
2018	950	1609	208	3.4	0.2	4.0
2019	984	1642	252	3.6	2.1	21.2
世帯主の年齢(歳)						
2019年	50.6	46.0	55.7	-	-	-

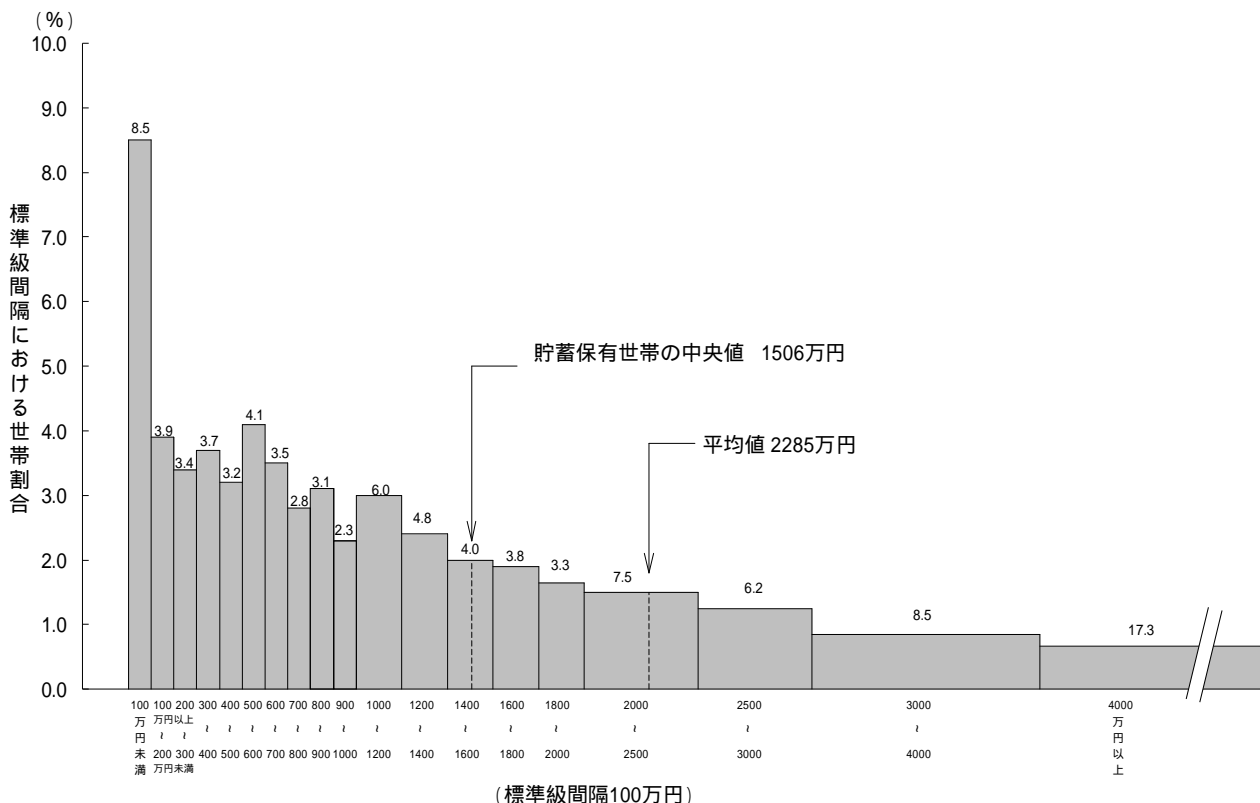
5 高齢者世帯

(1) 高齢者世帯では貯蓄現在高が2500万円以上の世帯が約3分の1を占める

二人以上の世帯のうち世帯主が60歳以上の世帯(二人以上の世帯に占める割合51.0%。以下「高齢者世帯」という。)について貯蓄現在高階級の世帯分布をみると、二人以上の世帯全体と比べて、高齢者世帯では貯蓄現在高が高い階級にも広がった分布となっている。そのうち2500万円以上の世帯は全体の32.0%を占めている。一方で、300万円未満の世帯は全体の15.8%を占めている。

(図 - 1 - 3, 図 - 5 - 1, 表 - 5 - 1)

図 - 5 - 1 高齢者世帯の貯蓄現在高階級別世帯分布 (二人以上の世帯) - 2019年 -



注) 標準級間隔100万円(1000万円未満)の各階級の度数は縦軸目盛りと一致するが、1000万円以上の各階級の度数は階級の間隔が標準級間隔よりも広いため、縦軸目盛りとは一致しない。

貯蓄保有世帯の中央値とは、貯蓄「0」世帯を除いた世帯を貯蓄現在高の低い方から順番に並べたときに、ちょうど中央に位置する世帯の貯蓄現在高をいう。

表 - 5 - 1 貯蓄現在高階級別世帯分布 (二人以上の世帯) - 2019年 -

世帯分布	平均	割合 (%)		
		300万円未満	300万円以上～2500万円未満	2500万円以上
二人以上の世帯	100.0	22.0	55.6	22.4
うち世帯主が60歳以上の世帯	100.0	15.8	52.3	32.0
うち世帯主が60歳未満の世帯	100.0	28.6	59.1	12.4

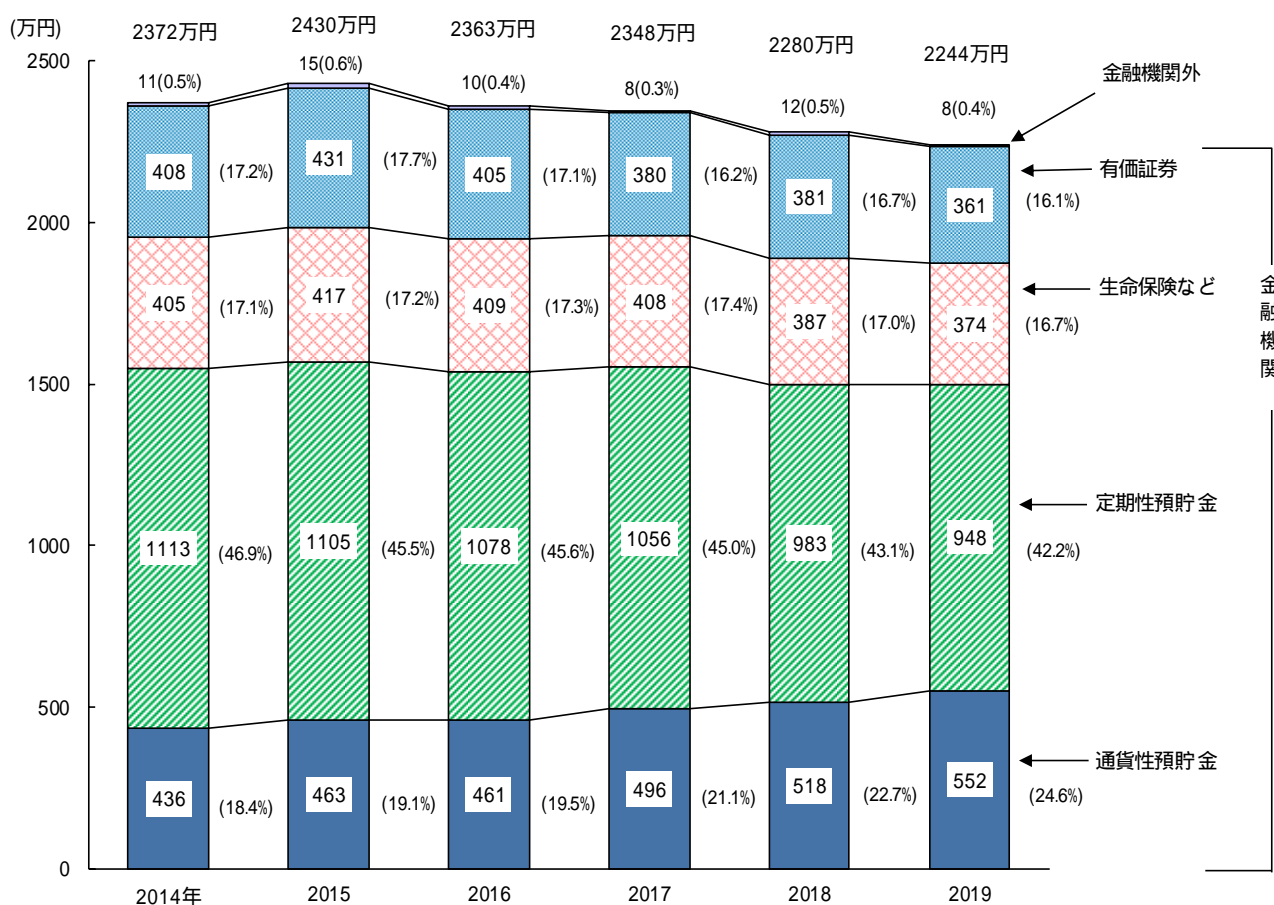
(2) 高齢無職世帯の定期性預貯金は948万円で前年に比べ3.6%の減少

二人以上の世帯のうち世帯主が60歳以上で無職の世帯（二人以上の世帯に占める割合32.5%。以下「高齢無職世帯」という。）の1世帯当たり貯蓄現在高は2244万円で、前年に比べ36万円、1.6%の減少となり、4年連続の減少となっている。

貯蓄の種類別に1世帯当たり貯蓄現在高をみると、定期性預貯金が948万円と最も多く、次いで通貨性預貯金が552万円、「生命保険など」が374万円、有価証券が361万円、金融機関外が8万円となっている。また、前年と比べると、定期性預貯金が35万円、3.6%の減少、「生命保険など」が13万円、3.4%の減少などとなっている。

(図 - 5 - 2, 表 - 5 - 2)

図 - 5 - 2 高齢無職世帯の貯蓄の種類別貯蓄現在高の推移（二人以上の世帯）



注) ()内は、貯蓄現在高に占める割合

表 - 5 - 2 高齢無職世帯の貯蓄の種類別貯蓄現在高の推移（二人以上の世帯）

年次	貯蓄現在高	金融機関				金融機関外	
		通貨性預貯金	定期性預貯金	生命保険など	有価証券		
金額(万円)							
2014年	2372	2362	436	1113	405	408	11
2015	2430	2416	463	1105	417	431	15
2016	2363	2353	461	1078	409	405	10
2017	2348	2340	496	1056	408	380	8
2018	2280	2269	518	983	387	381	12
2019	2244	2236	552	948	374	361	8
構成比(%)							
2014年	100.0	99.6	18.4	46.9	17.1	17.2	0.5
2015	100.0	99.4	19.1	45.5	17.2	17.7	0.6
2016	100.0	99.6	19.5	45.6	17.3	17.1	0.4
2017	100.0	99.7	21.1	45.0	17.4	16.2	0.3
2018	100.0	99.5	22.7	43.1	17.0	16.7	0.5
2019	100.0	99.6	24.6	42.2	16.7	16.1	0.4
対前年増減率(%)							
2015年	2.4	2.3	6.2	-0.7	3.0	5.6	36.4
2016	-2.8	-2.6	-0.4	-2.4	-1.9	-6.0	-33.3
2017	-0.6	-0.6	7.6	-2.0	-0.2	-6.2	-20.0
2018	-2.9	-3.0	4.4	-6.9	-5.1	0.3	50.0
2019	-1.6	-1.5	6.6	-3.6	-3.4	-5.2	-33.3

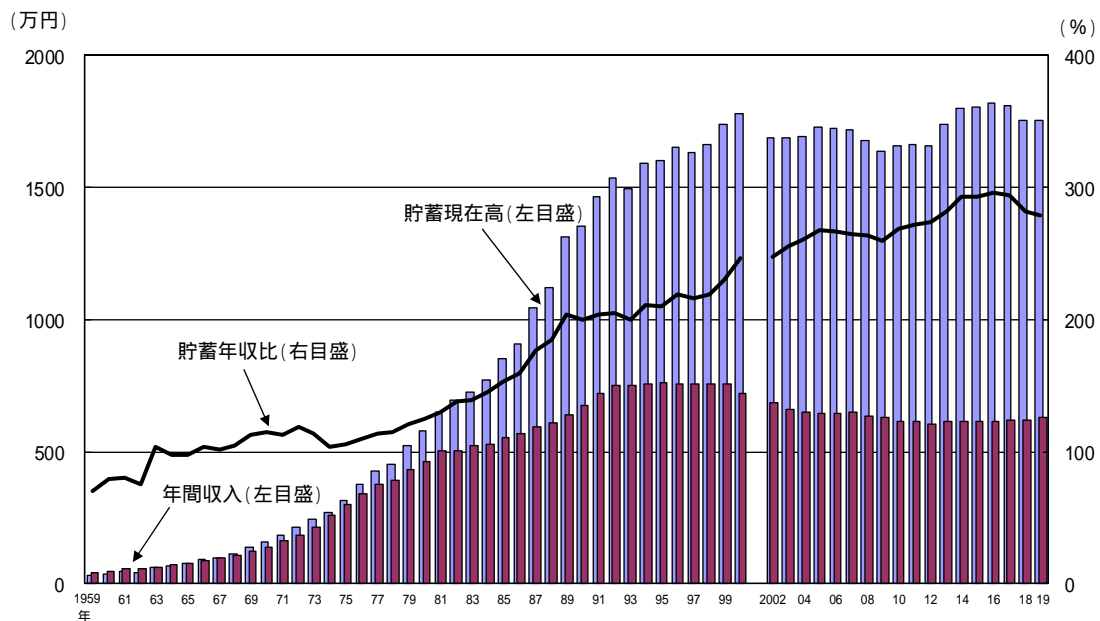
< 参考 1 - 1 > 長期時系列（二人以上の世帯の貯蓄の推移）

貯蓄現在高の年間収入に対する比は60年前の4.0倍

二人以上の世帯について1世帯当たり貯蓄現在高の最近の推移をみると、リーマンショック後、2010年、2011年と増加した後、2012年は減少となった。2013年以降は4年連続で増加となったが、2017年、2018年は減少となり、2019年は3年ぶりの増加となった。2019年(1755万円)の水準は約半世紀前の1959年(30万円)の58.5倍となっている。また、貯蓄年収比（貯蓄現在高の年間収入に対する比）をみると、2019年は279.0%と、1959年(70.0%)の4.0倍となっている。

（図、< 参考 1 - 2 > 表）

図 貯蓄現在高及び年間収入の推移（二人以上の世帯）



注) 2000年以前は、「貯蓄動向調査」結果による。数値については次ページ参照 ⇨

貯蓄動向調査：家計調査の附帯調査として2000年まで毎年12月31日現在で実施。
 家計調査とは、調査時期、調査対象世帯数等が異なる。
 貯蓄・負債編としての調査は、1年の準備期間の後、2002年から実施

< 参考 1 - 2 > 表 貯蓄現在高及び年間収入の推移（二人以上の世帯）

年次	貯蓄現在高 (1) (万円)	年間収入 (2) (万円)	対前年増減率		貯蓄比 (1)/(2) (%)
			貯蓄現在高 (%)	年間収入 (%)	
1959年	30.23	43.18	-	-	70.0
1960	35.90	45.31	18.8	4.9	79.2
1961	46.21	57.28	28.7	26.4	80.7
1962	44.09	58.32	-4.6	1.8	75.6
1963	64.65	62.57	46.6	7.3	103.3
1964	68.90	70.59	6.6	12.8	97.6
1965	76.36	78.39	10.8	11.0	97.4
1966	90.99	88.19	19.2	12.5	103.2
1967	99.47	97.58	9.3	10.6	101.9
1968	112.62	107.79	13.2	10.5	104.5
1969	139.45	123.49	23.8	14.6	112.9
1970	160.27	139.35	14.9	12.8	115.0
1971	182.91	162.12	14.1	16.3	112.8
1972	214.98	181.60	17.5	12.0	118.4
1973	242.60	212.35	12.8	16.9	114.2
1974	270.42	259.78	11.5	22.3	104.1
1975	316.8	299.0	17.2	15.1	106.0
1976	376.8	342.8	18.9	14.6	109.9
1977	427.1	376.9	13.3	9.9	113.3
1978	451.1	393.2	5.6	4.3	114.7
1979	521.2	431.4	15.5	9.7	120.8
1980	579.4	464.3	11.2	7.6	124.8
1981	650.0	501.7	12.2	8.1	129.6
1982	697.2	505.1	7.3	0.7	138.0
1983	726.3	523.5	4.2	3.6	138.7
1984	769.7	529.7	6.0	1.2	145.3
1985	852.8	555.7	10.8	4.9	153.5
1986	909.5	571.0	6.6	2.8	159.3
1987	1045.2	592.3	14.9	3.7	176.5
1988	1119.8	607.5	7.1	2.6	184.3
1989	1311.0	641.3	17.1	5.6	204.4
1990	1353.0	677.3	3.2	5.6	199.8
1991	1465.4	718.9	8.3	6.1	203.8
1992	1536.8	750.5	4.9	4.4	204.8
1993	1498.2	751.0	-2.5	0.1	199.5
1994	1592.1	755.2	6.3	0.6	210.8
1995	1603.5	761.8	0.7	0.9	210.5
1996	1655.3	754.5	3.2	-1.0	219.4
1997	1634.5	754.8	-1.3	0.0	216.5
1998	1660.7	758.4	1.6	0.5	219.0
1999	1737.7	755.0	4.6	-0.4	230.2
2000	1781.2	721.3	2.5	-4.5	246.9
2001	-	-	-	-	-
2002	1688	683	-	-	247.1
2003	1690	660	0.1	-3.4	256.1
2004	1692	650	0.1	-1.5	260.3
2005	1728	645	2.1	-0.8	267.9
2006	1722	645	-0.3	0.0	267.0
2007	1719	649	-0.2	0.6	264.9
2008	1680	637	-2.3	-1.8	263.7
2009	1638	630	-2.5	-1.1	260.0
2010	1657	616	1.2	-2.2	269.0
2011	1664	612	0.4	-0.6	271.9
2012	1658	606	-0.4	-1.0	273.6
2013	1739	616	4.9	1.7	282.3
2014	1798	614	3.4	-0.3	292.8
2015	1805	616	0.4	0.3	293.0
2016	1820	614	0.8	-0.3	296.4
2017	1812	617	-0.4	0.5	293.7
2018	1752	622	-3.3	0.8	281.7
2019	1755	629	0.2	1.1	279.0

貯蓄動向調査の結果

家計調査（貯蓄・負債編）の結果

注) 1959年から2000年までは貯蓄動向調査の結果であり、2002年以降は家計調査（貯蓄・負債編）の結果である。

< 参考 2 > 2019年の貯蓄・負債をめぐる主な動き

貯蓄・負債関係

- ・ ゆうちょ銀行の預入限度額が1300万円から2600万円に引上げ（4月）
- ・ 最低賃金が全国平均で27円引き上げられ901円に。比較可能な2002年以降最大の引上げ幅（7月）
- ・ かんぽ生命保険の不適切な販売が相次ぎ、日本郵政がかんぽ生命の全保険商品の営業を自粛すると発表（7月）
- ・ 経団連がまとめた大企業が支給するボーナスの平均妥結額は、夏92万1107円、冬95万1411円と、それぞれ前年比3.44%の減少、1.77%の増加（8月、12月）
- ・ 消費増税後の住宅取得や改修に減税やポイント付与などの支援策を実施（10月）
- ・ 少額投資非課税制度「つみたてNISA」の2019年末時点の口座数は189万(速報値)と1年前から約82%の増加、買付額は2973億円と約219%の増加（12月）
- ・ 2020年1月時点の住宅地の公示地価は、3年連続の上昇
- ・ 2019年の新設住宅着工戸数は前年比4.0%減となり、3年連続の減少
- ・ 米中関係の悪化などの影響から、8月の日経平均株価は2万1000円割れで推移。その後、両国の関係改善などにより10月から年末にかけて堅調に推移

その他

- ・ 日本と欧州連合（EU）の経済連携協定（EPA）が発効（2月）
- ・ 天皇陛下が即位。「令和」に改元（5月）
- ・ 2020年東京オリンピックチケットの抽選受け付けが開始（5月）
- ・ 山形県沖を震源とする最大震度6強の地震が発生（6月）
- ・ 仁徳天皇陵古墳を含む「百舌鳥・古市古墳群」が世界文化遺産に登録決定（7月）
- ・ 梅雨前線の影響などで曇りや雨の日が多く、東日本では7月としては12年ぶりの低温に（7月）
- ・ 渋野日向子選手がゴルフ全英女子オープンで優勝。日本人選手として42年ぶりに海外メジャーを制覇（8月）
- ・ 九州北部で記録的な大雨を観測（8月）
- ・ 台風15号（令和元年房総半島台風）が千葉県を直撃。大規模停電が長期間発生（9月）
- ・ 台風19号（令和元年東日本台風）が関東地方を通過し、18都県の103地点で24時間降水量の記録を更新。阿武隈川や千曲川など、河川の氾濫、決壊が相次ぐ。鉄道事業者が計画運休を実施（10月）
- ・ インフルエンザが早期流行。1999年以降では、新型インフルエンザが流行した2009年を除いて最も早い「流行入り」（11月）
- ・ ラグビーワールドカップ日本大会が開幕。日本は初のベスト8に（9～11月）
- ・ 東日本と西日本の秋の気温は、1946年以来過去最高に（9～11月）
- ・ 天皇陛下の「即位礼正殿の儀」（10月）、即位祝賀パレード「祝賀御列の儀」（11月）
- ・ 12月23日の旧天皇誕生日が平日となる一方で、日並びの関係で年末年始が9連休に
- ・ 高齢ドライバーによる重大事故や「あおり運転」が社会問題化。JEITAによると、上半期（4～9月）のドライブレコーダー国内出荷台数は前年同期比45.2%の増加
- ・ 2019年の訪日外国人数が全国で前年比2.2%増の3188万2千人（暫定値）と、8年連続の増加